

# 安全報告書

## (2007年度)



- ・ 全日本空輸株式会社
- ・ エアーニッポン株式会社
- ・ 株式会社エアージャパン
- ・ エアーネクスト株式会社
- ・ 株式会社エアニッポンネットワーク
- ・ エアーセントラル株式会社
- ・ 株式会社 ANA&JP エクスプレス

本安全報告書は、航空法第111条の6に基づき作成したものです。

目 次

はじめに .....	2
1. 輸送の安全を確保するための事業の運営の基本的な方針に関する事項 .....	4
2. 輸送の安全を確保するための事業の実施及びその管理の体制に関する事項 .....	5
(1) ANAグループとしての安全推進について .....	5
(2) グループ各社の安全確保に関する組織 .....	6
(3) 各組織の人員数 .....	20
(4) 航空機乗組員、客室乗務員、整備従事者数、有資格整備士、運航管理者の数 .....	22
(5) 業務の管理の委託に関する情報 .....	24
(6) 航空機乗組員に対する定期訓練および審査の内容 .....	25
(7) 客室乗務員に対する定期訓練および審査の内容 .....	26
(8) 整備従事者に対する定期訓練および審査の内容 .....	26
(9) 運航管理者に対する定期訓練および審査の内容 .....	28
(10) 日常運航における問題点の把握方法およびフィードバック方法 .....	29
(11) 安全に関する社内啓発活動等の取組み .....	38
(12) 使用している航空機の情報 .....	40
(13) 機種別輸送実績 .....	41
(14) 路線別輸送実績 .....	41
3. 航空法第 111 条の 4 に基づく「航空機の正常な運航に安全上の支障を及ぼす事態」の発生状況 .....	50
(1) 事故 .....	50
(2) 重大インシデント .....	51
(3) その他の安全上のトラブル .....	52
4. 輸送の安全を確保するために講じた措置 .....	55
(1) 国から受けた事業改善命令等 .....	55
(2) 輸送の安全を確保するために講じたその他の措置 .....	55
(3) 2007 年度における安全に関する目標とその実施状況、達成度及びその評価 .....	56
(4) 2008 年度における安全に関する目標 .....	63

## はじめに

### 「2007 年度 ANA グループ安全報告書」発行にあたって

平素は、ANA グループをご利用いただき厚く御礼申し上げます。

「2007 年度 ANA グループ安全報告書」を作成いたしましたので、ぜひ、ご一読いただき、ANA グループの安全に関する取り組みをご理解頂けますよう、お願い申し上げます。

ANA グループでは、グループ安全理念を掲げており、「安全」は経営の基盤であり社会への責務であるとし、また、この理念は、ANA グループにとって不変の価値観であり、お客様の安心と信頼なくして、ANA グループの繁栄はありえないとしております。ANA グループは、この理念に基づき、日々の業務の中で常に安全に配慮し、運航を続けてまいりましたので、そのご報告をさせていただきます。

昨年の 3 月 13 日に高知空港にてボンバルディア社製 DHC8-400 型機の前輪が出ないまま着陸に至った事故が発生しましたが、ANA グループでは全力をあげて事故の再発防止に努めてまいりました。また、このような事故の発生を未然に防止する体制として、ANA グループの安全管理体制を再構築すべく、組織や業務の進め方についても見直しをしてまいりました。更に、グループ社員一人一人に対し、安全への意識付けを、昨年度末にオープンいたしました「ANA グループ安全教育センター」で行ってまいりました。安全教育に関しましては、早期に全員受講を目指すとともに、新入社員の新人教育での必須科目としてもとりあげ、また、ベテラン社員につきましても繰り返し受講する仕組みとしてリカレント訓練や階層毎に深度を深めて教育する体制も着々と準備しております。

2007 年度は、ANA グループの安全文化を測る目的で、社外安全コンサルタントの協力を得て、アンケート方式による「安全文化企業診断」を行いました。このような地道な活動を日々続けることにより、お客様に安心してご利用いただけるグループ航空会社を目指してまいりますので、何卒変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

全日本空輸株式会社	安全統括管理者	森本 光雄
エアーニッポン株式会社	安全統括管理者	小柳 秀夫
株式会社エアージャパン	安全統括管理者	太田 光彦
エアーネクスト株式会社	安全統括管理者	岡田 一朗
株式会社エアーニッポンネットワーク	安全統括管理者	川内 秀光
エアーセントラル株式会社	安全統括管理者	岩本 義幸
株式会社 ANA&JP エクスプレス	安全統括管理者	清野 瑞一

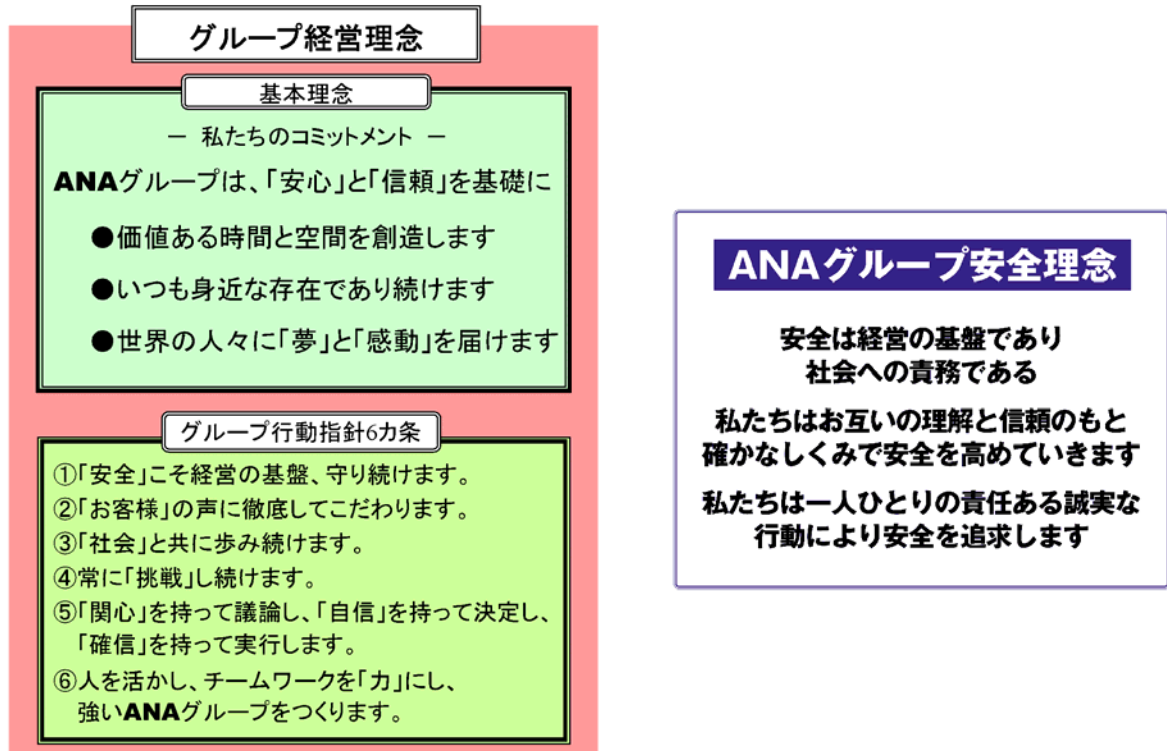
本安全報告書で使用する ANA グループ航空会社の名称及び略称

- ・ 全日本空輸株式会社 : ANA
- ・ エアーニッポン株式会社 : ANK
- ・ 株式会社エアー・ジャパン : AJX
- ・ エアーネクスト株式会社 : NXA
- ・ 株式会社エアーニッポンネットワーク : AKX
- ・ エアーセントラル株式会社 : CRF
- ・ 株式会社 ANA & JP エクスプレス : AJV

各々の事業領域、使用機材及び主要な空港事業所 (図 0-1)。

ANA	旅客運送事業					貨物運送事業		主要な 空港事業所
	国内線		国際線			国内線	国際線	
	短距離	長距離	短距離	中距離	長距離			
全日本空輸 (株) ANA			B747, B777, B767 A321 / A320					羽田・伊丹 成田
エアーニッポン(株) ANK	A320, B737		B737					羽田・関西 福岡
(株) エアー・ジャパン AJX				B767				成田
エアーネクスト (株) NXA	B737							福岡
(株) エアーニッポンネットワーク AKX	DHC8							丘珠・羽田 伊丹
エアーセントラル (株) CRF	DHC8 F50							中部
(株)ANA & JP エクスプレス AJV							B767	成田

1. 輸送の安全を確保するための事業の運営の基本的な方針に関する事項



ANA グループはグループ共通の「グループ経営理念」及び「ANA グループ安全理念」を掲げて安全推進を行っています。

また、安全管理規程に以下の方針を定めています。

- (1) 安全は、定時、快適など他の品質要素に優先すること。
- (2) 安全は航空輸送事業の原点であること。
- (3) 会社は日本国および運航する国の関連法令等を遵守すること。

2. 輸送の安全を確保するための事業の実施及びその管理の体制に関する事項

(1) ANA グループとしての安全推進について

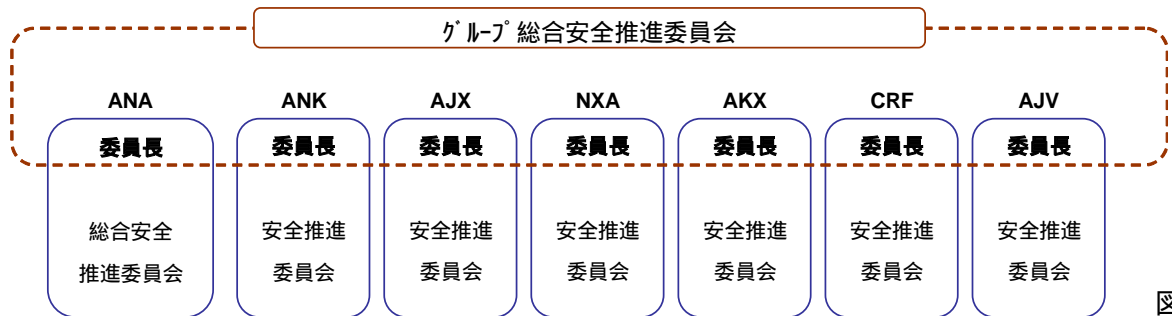


図 2-1

グループ総合安全推進委員会は、各 ANA グループ航空会社の安全推進委員会（ANA のみ総合安全推進委員会という名称）の委員長がグループ内の安全に関わる重要事案についての情報を共有し認識の一致を図る場であるとともに、ANA グループの安全に関する方針を定め、各グループ会社に対して提言・勧告および指示を行う、ANA グループの安全に関する最高の審議・決定機関です。

航空法第 103 条の 2 に基づき航空会社は「安全統括管理者」を選任することになっており、ANA グループにおいては、各社の安全推進委員会委員長を「安全統括管理者」としてしています。

ANA グループ航空会社はグループ共通の「ANA グループ安全理念」を設定し、これに基づき毎事業年度グループ共通の安全目標を策定することで重要な課題を解決し安全の維持向上を図っています。

加えて各社は必要に応じ独自の安全目標を設定する場合があります。

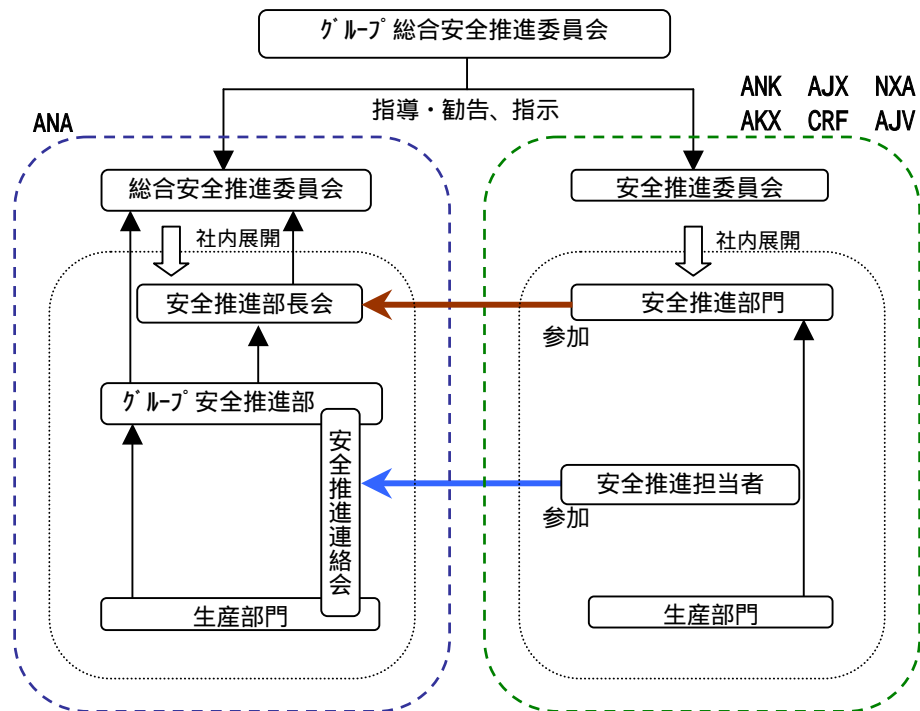
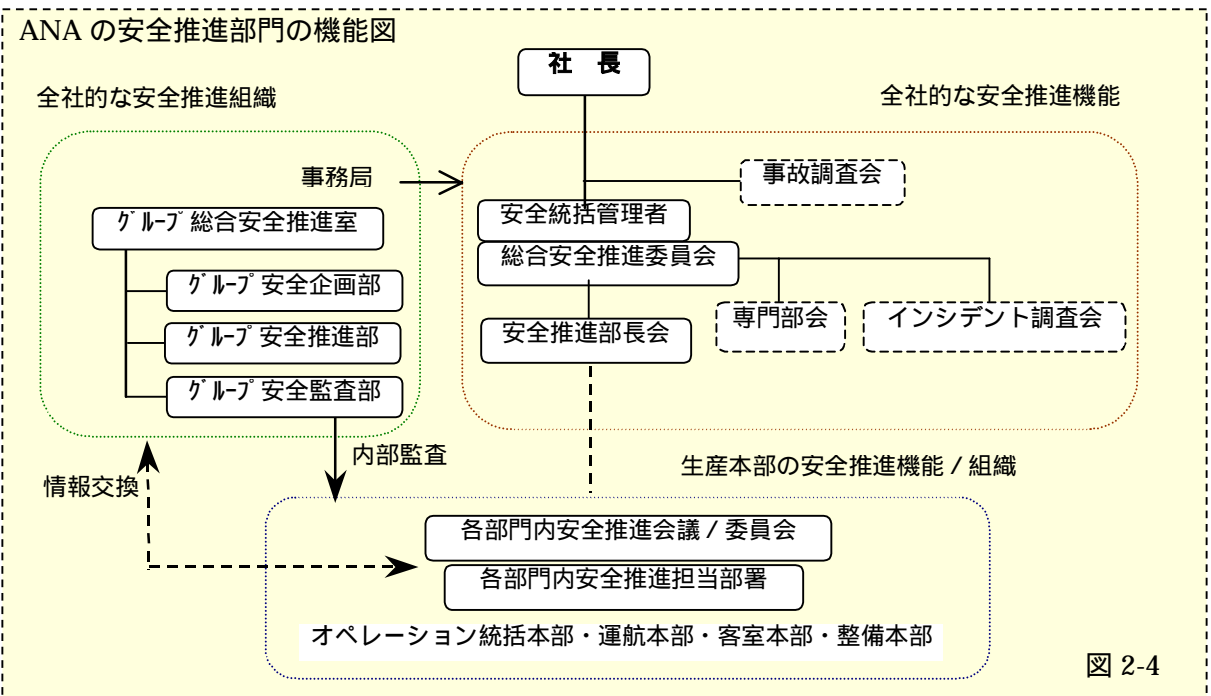
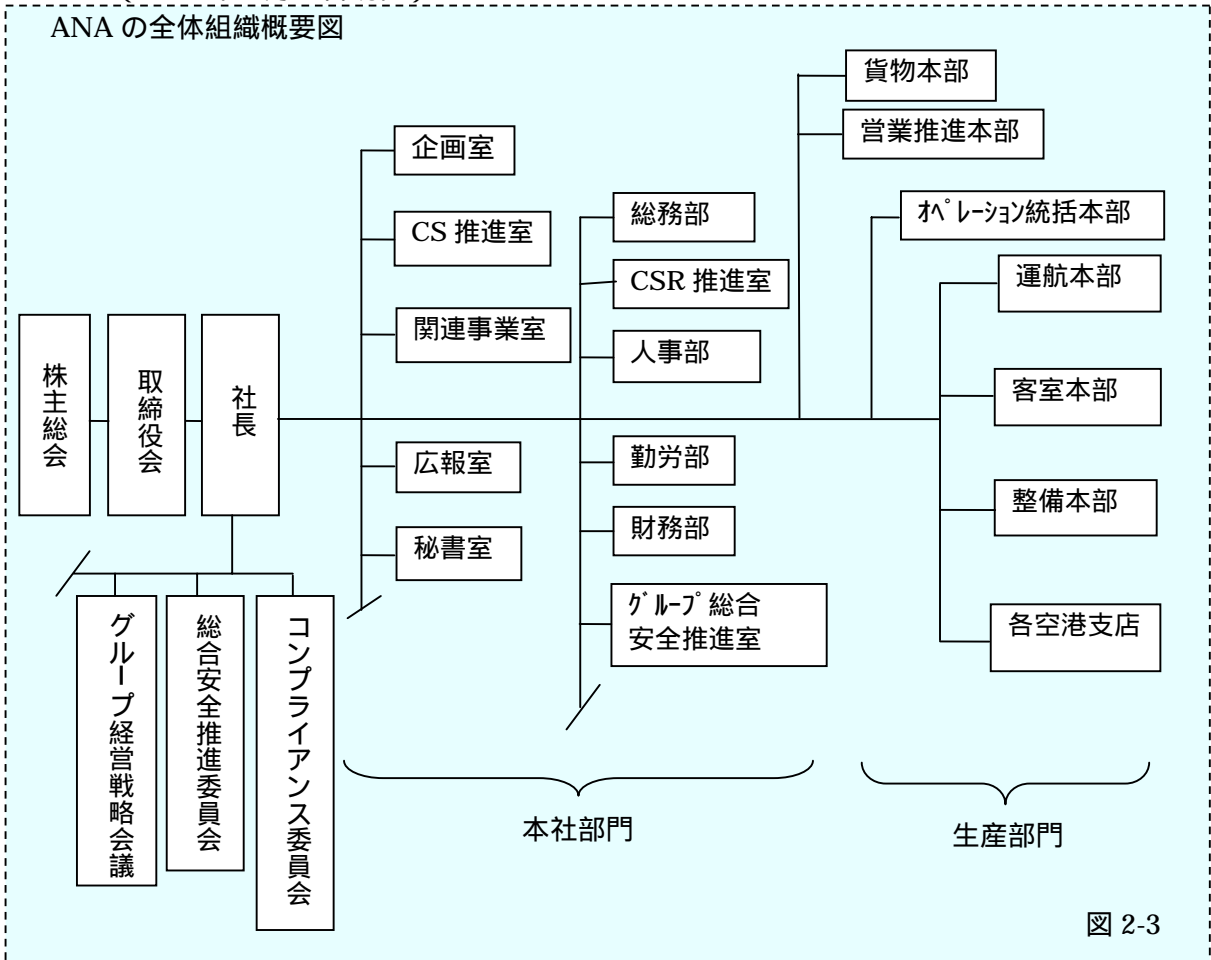


図 2-2

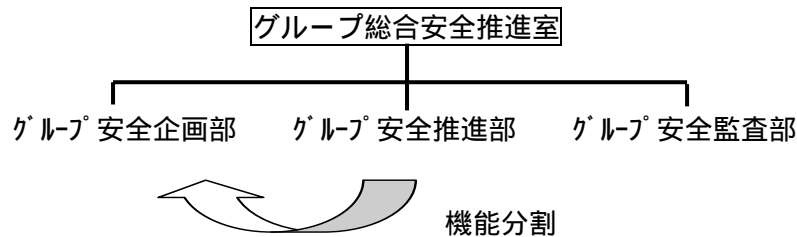
(2) グループ各社の安全確保に関する組織

ANA (2008年1月1日現在)



ANA の各組織の機能・役割の概要

- (1) ANA の組織は、本社部門と現業部門である生産部門に大別されます。  
生産部門には、運航乗務員が属する運航本部、客室乗務員が属する客室本部、整備士が属する整備本部、空港全般を担当するオペレーション統括本部、貨物を担当する貨物本部があります。
- (2) 「総合安全推進委員会」は、安全上重要な課題の審議、方針の決定、安全対策の実施状況の確認、監視、提言・勧告、指示を行う、会社の安全に関わる最高の審議・決定機関です。
- (3) 総合安全推進委員会の下部組織に相当する「安全推進部長会」は、各生産部門の部室長と本社部門の関連部所の部室長から構成されており、具体的な安全推進活動を行います。
- (4) 本社部門である「グループ総合安全推進室」は、常設組織として社内の安全状況を全般的に把握し、全社的な安全推進を担当しています。  
2007年4月に、グループ総合安全推進室のグループ安全推進部から企画機能を分離し、グループ安全企画部を新設・増員し、安全に関する機能の強化を図りました。



- (5) 「グループ安全企画部」は、「総合安全推進委員会」や「安全推進部長会」の事務局を担当するとともに、安全目標の設定等、ANA グループ全体の安全推進機能の方針設定を主に担当しています。
- (6) 「グループ安全推進部」は、会社全体としての安全推進活動や安全啓発活動について具体的な施策を立案し、実行・推進する役割を担っています。  
また、ANA グループ航空会社への支援も行っています。
- (7) 「グループ安全監査部」は、各組織の品質保証の仕組みが、国や会社が定める安全上の基準および国際的な安全基準に適合しているか、状況を客観的に評価し、是正を求める役割を担っています。また、ANA グループ航空会社の内部安全監査への支援も行なっています。
- (8) 各生産部門は、それぞれ部門内の安全の状況を把握し安全課題の審議や方針を決定する「委員会（会議体）機能」と部門内の安全推進を担当する部所を有しており、各生産部門の安全推進を担当する部所とグループ安全推進部は情報交換を行なっています。



ANK (2008年1月1日現在)

ANKの全体組織概念図

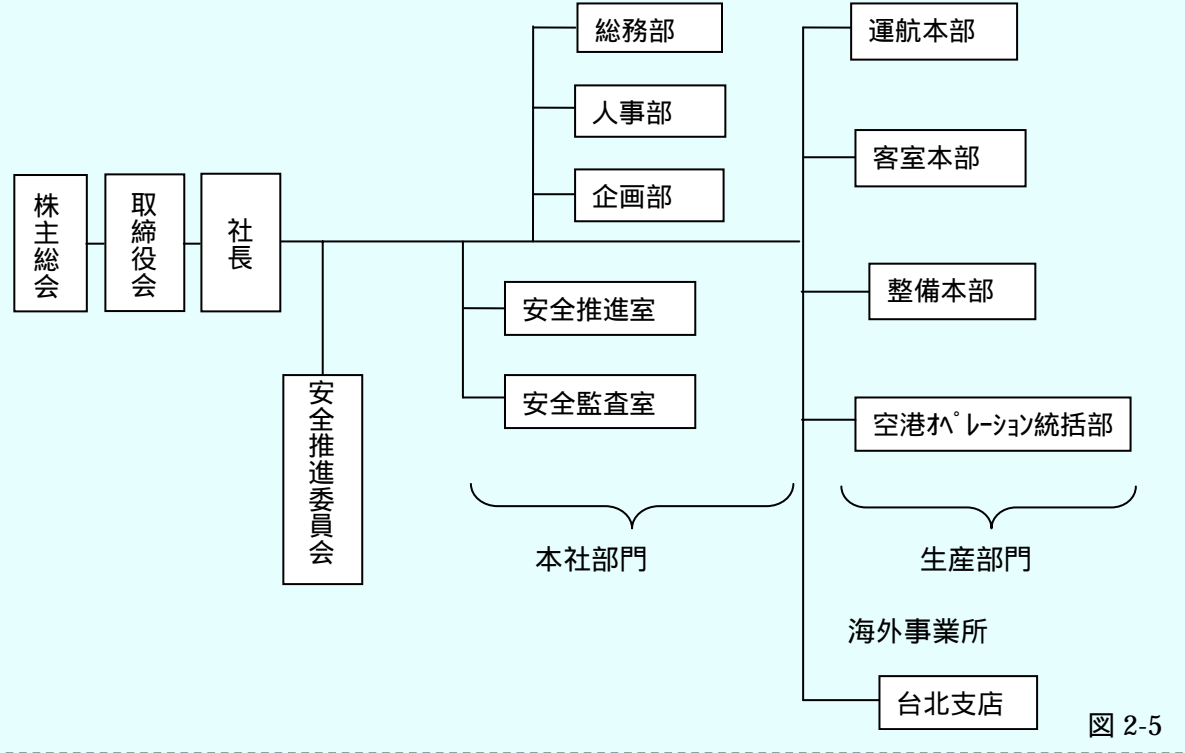


図 2-5

ANKの安全推進部門の機能図

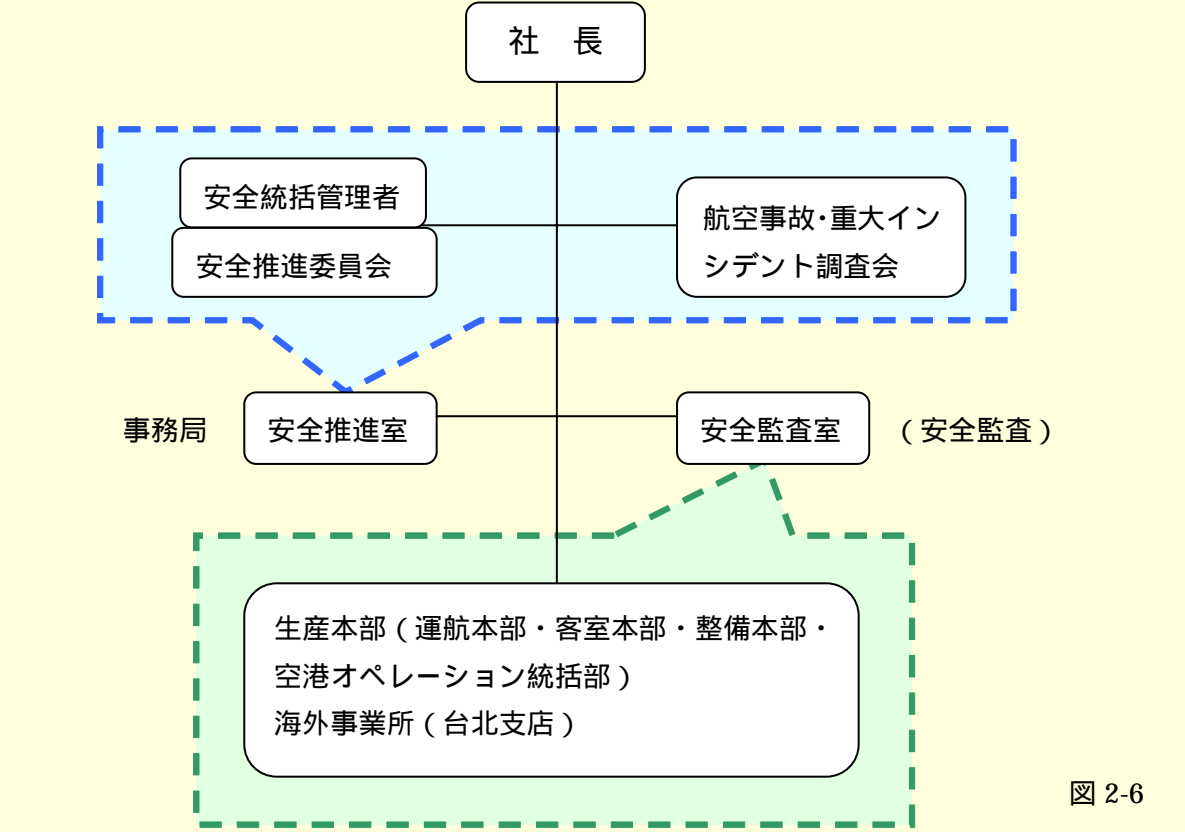


図 2-6

ANK の各組織の機能・役割の概要

- (1) ANK の組織は、本社部門と現業部門である生産部門に大別されます。本社部門には総務部、人事部、企画部、ならびに安全推進室、安全評価室があります。生産部門には、運航乗務員が属する運航本部、客室乗務員が属する客室本部、整備士が属する整備本部等があります。
- (2) 「安全推進委員会」は、安全に関わる重要事項の最高決議機関です。方針の決定、安全対策の実施状況の確認、監視、提言・勧告、指示を行う、会社の安全に関わる最高の審議・決定機関です。
- (3) 「安全推進室」は、安全推進委員会の事務局として、全社的な方針、安全目標、安全施策、安全に関する課題の提案を行います。安全に関する情報の収集、社内への提供、安全教育等安全に関する啓発活動を実施します。
- (4) 「安全監査室」は、各組織の安全を維持する仕組みが正しく機能し、組織間の横断的業務が連続性を保持していることおよび国際的な安全標準に適応しているか、状況を客観的に評価し、是正を求める役割を担っています。
- (5) 各生産部門は、安全および品質に関わる基本方針に基づき、自部門内での安全・品質の方針を設定し、周知するとともに、これらの方針を部門の業務として具現化します。



AJX (2008年1月1日現在)

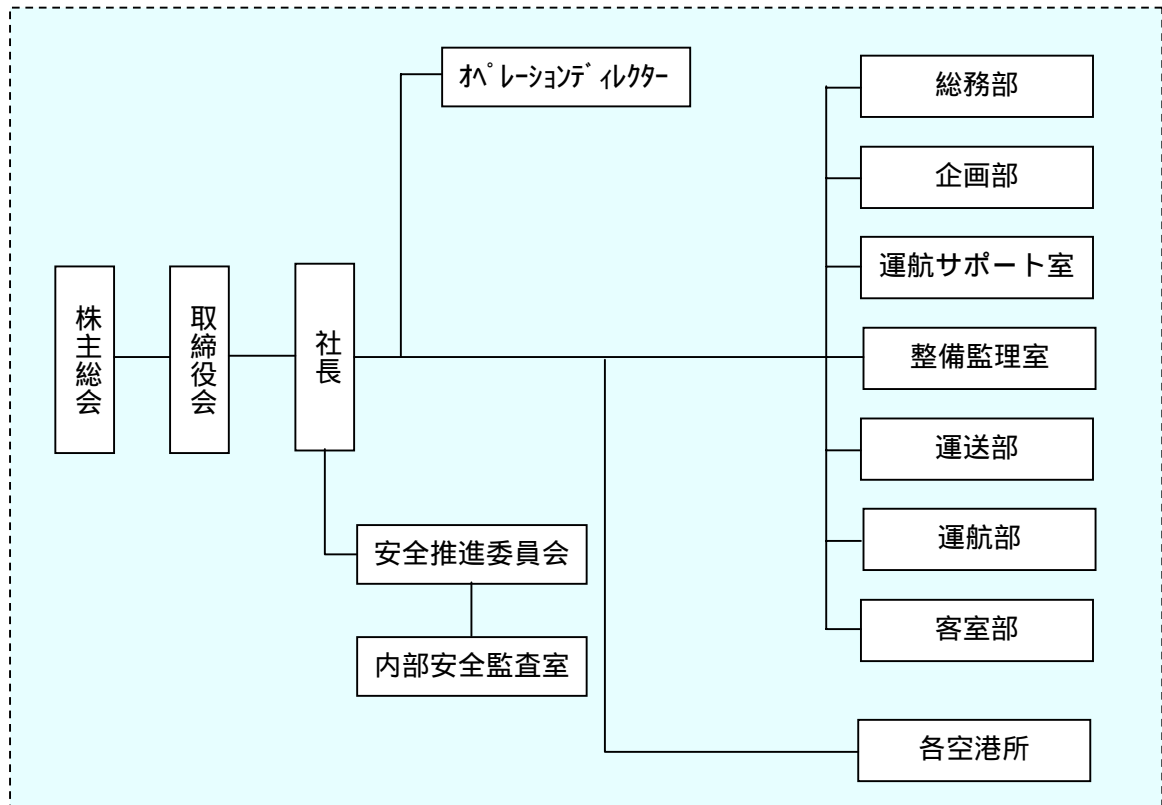


図 2-7

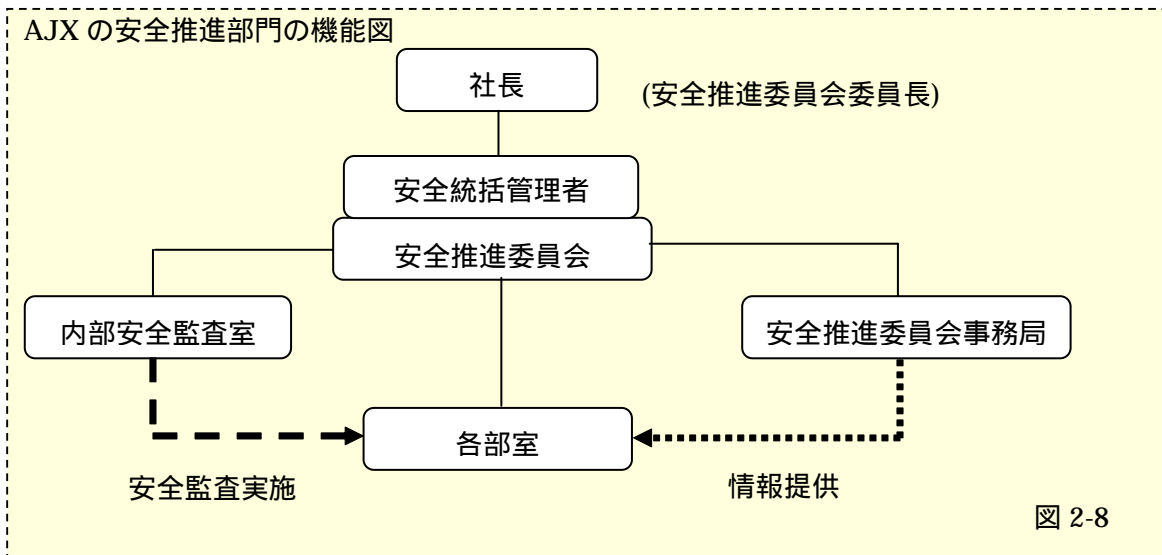


図 2-8

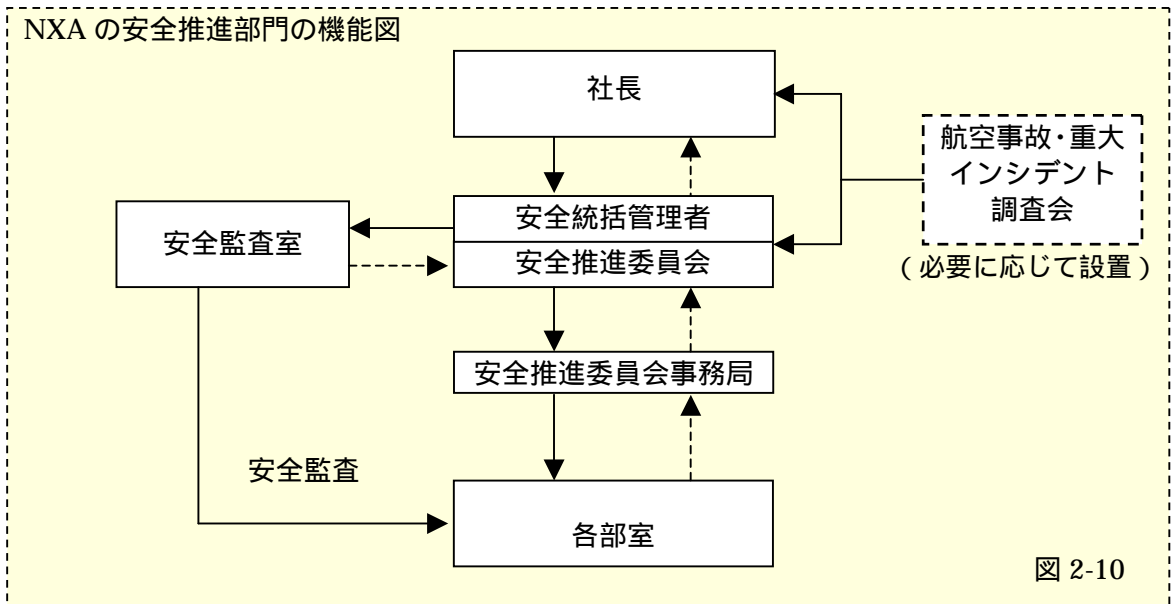
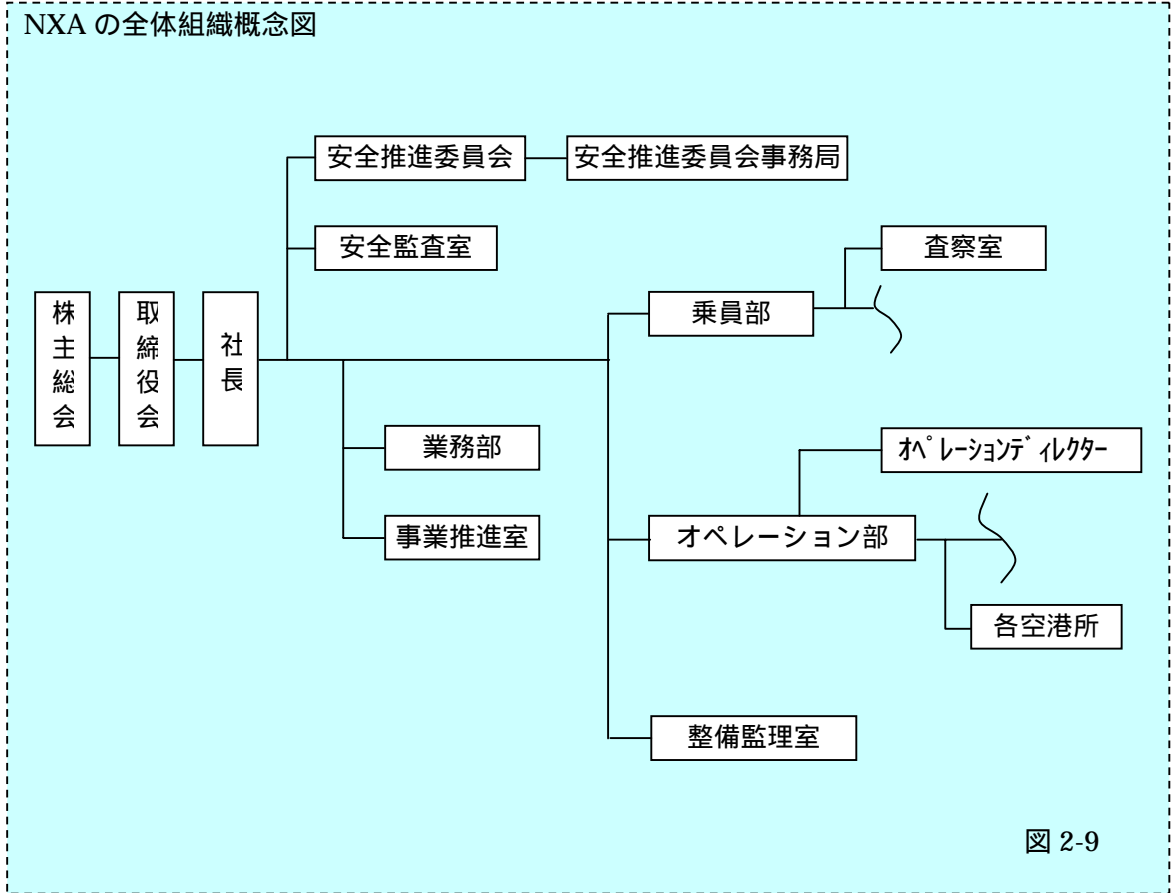
AJX の各組織の機能・役割の概要

- (1) AJX の組織は、本社部門と生産部門に大別されます。  
生産部門には、運航業務の円滑実施の為の支援を行う「運航サポート室」、委託管理部門である「整備監理室」、「運送部」そして現業部門である「運航部」、「客室部」があります。  
整備および運送業務については、ANA に委託しており、整備管理室および運送部が、委託先に対する指示・品質の監視を行っています。
- (2) 「安全推進委員会」は、安全上重要な課題の審議、方針の決定、安全対策の実施状況の確認、監視、提言・勧告、指示を行う、会社の安全にかかわる最高の審議・決定機関です。
- (3) 「安全推進委員会事務局」は、安全推進機能の事務局を担当し、社内の安全状況を把握し、安全推進を担当しています。
- (4) 「内部安全監査室」は、各組織の品質保証の仕組みが、国や会社が定める安全上の基準および国際的な安全基準に適應しているか、状況を客観的に評価し、是正を求める役割を担っています。



AJX 運航の B767-300ER

NXA (2008年1月1日現在)



NXA の各組織の機能・役割の概要

- (1)NXAの組織は、本社部門と生産部門に大別されます。  
生産部門には、運航乗務員が属する乗員部と、客室乗務員が属するオペレーション部があります。整備業務および運送業務については、グループ各社に委託しており、整備監理室およびオペレーション部が委託先に対する指示・品質の監視を行っています。
- (2)「安全推進委員会」は、安全に関わる重要事項の審議、方針の決定、安全対策の実施状況の確認、監視、提言・勧告、指示を行う、会社の安全に関わる最高の審議・決定機関であり、組織横断的に安全を推進します。
- (3)「安全推進委員会事務局」は、安全推進委員会の円滑かつ効果的な運営を行い、社内における安全運航についての意識高揚を図るとともに、安全に係る問題点および課題を抽出し、関係する社外諸機関および社内各部所との調整を実施しながら、解決に向けた諸施策の策定を行います。
- (4)「安全監査室」は、安全推進委員会事務局および各生産部門に対して、各組織の安全を維持する仕組みが正しく機能していること、また組織横断的業務が適切に処理されていることを客観的に評価します。改善策が必要な場合には当該部門に指示すると共に、進捗を確認しています。
- (5)各生産部門は、安全および品質に関わる基本方針に基づき、自部門内での安全・品質の方針を設定し、周知するとともに、これらの方針を部門の業務として具現化します。



NXA 運航の B737-500

AKX (2008年1月1日現在)

AKXの全体組織概念図

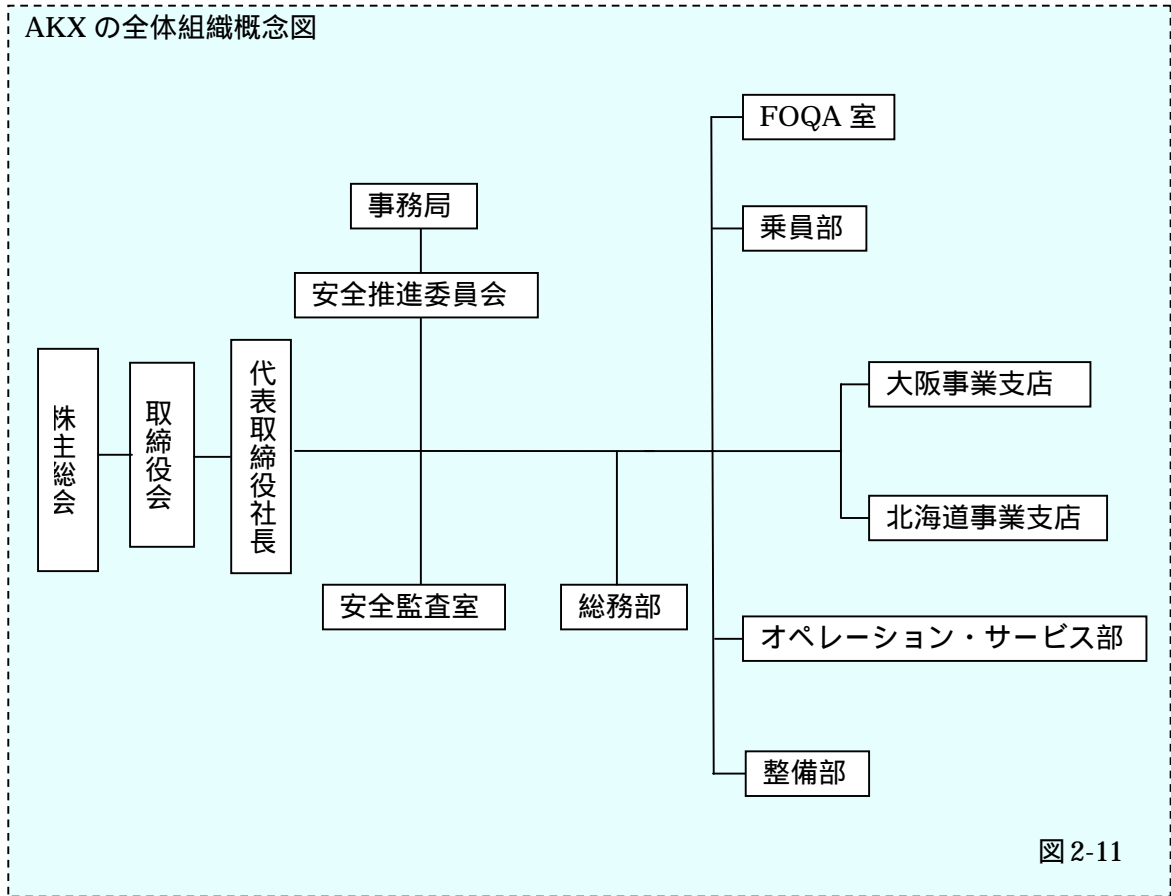


図 2-11

AKXの安全推進部門の機能図

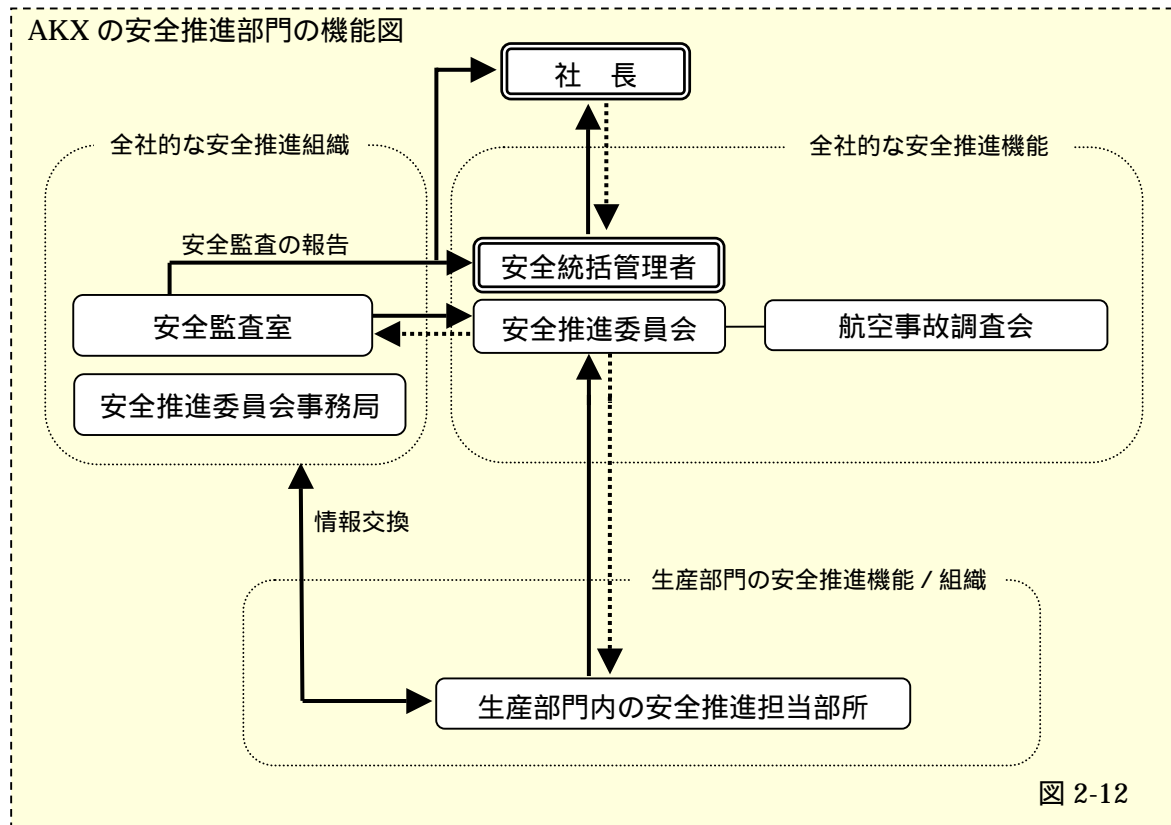


図 2-12

AKX の各組織の機能・役割の概要

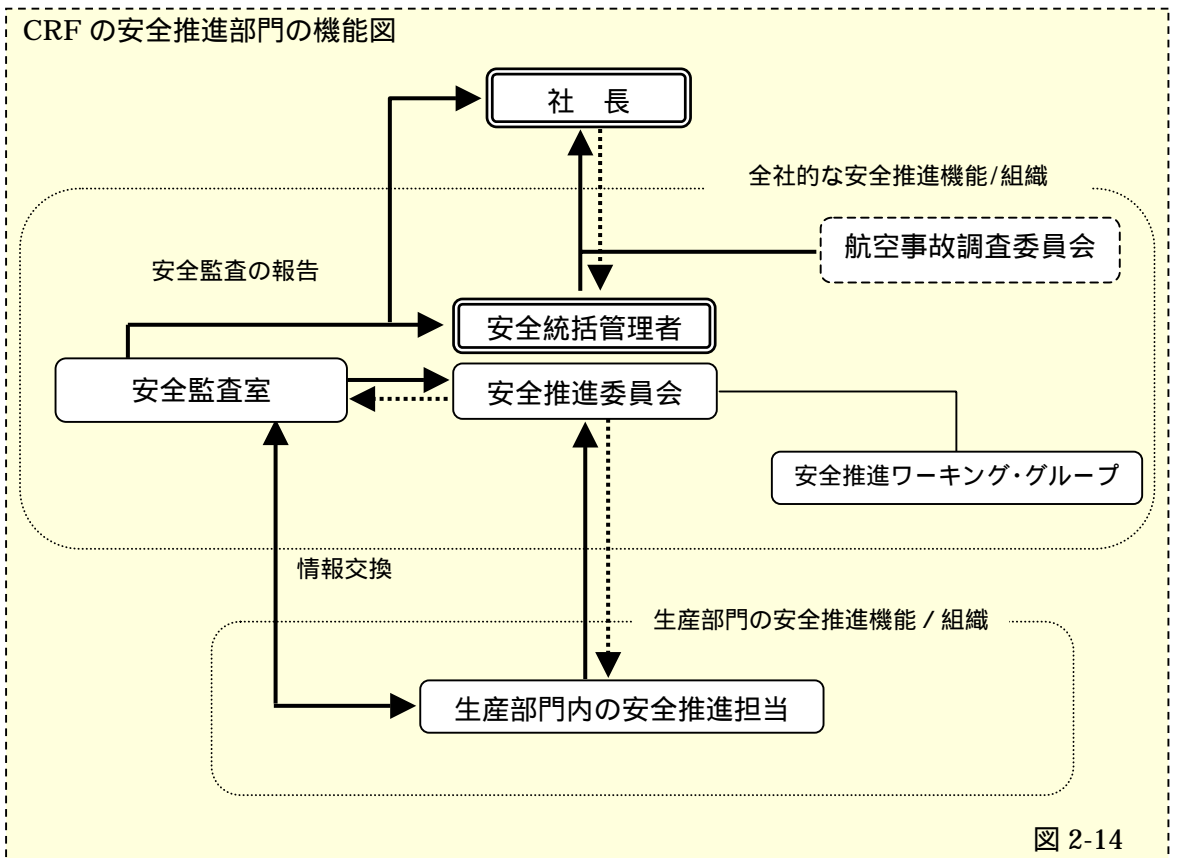
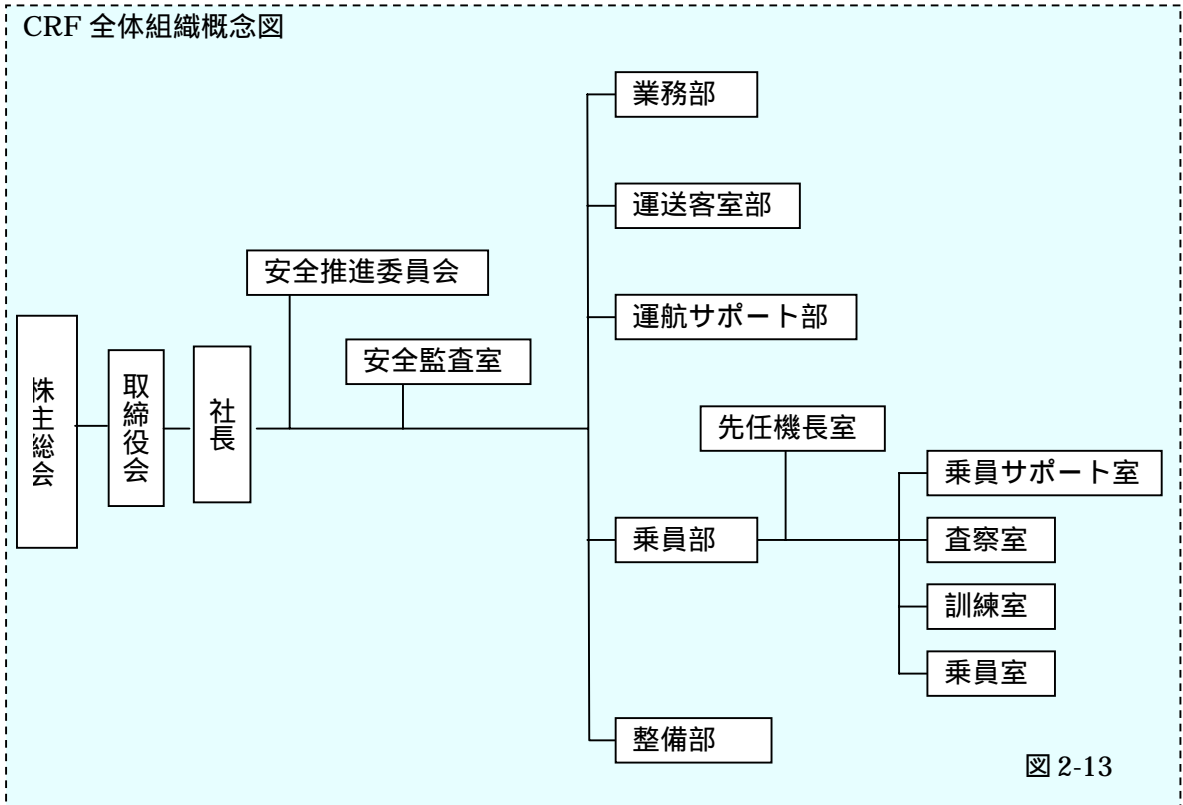
- (1) AKX の組織は、本社部門と生産部門に大別されます。  
生産部門には、運航管理業務・客室業務・旅客業務および運送取扱業務に係わる管理業務を実施するオペレーション・サービス部、航空機整備業務に関する整備管理業務等を実施する整備部、運航乗務員の諸要件に係る総括管理を実施する乗員部等があります。
- (2) 「安全推進委員会」は、各関連部門との密接な連絡のもと、安全に関する理念、基本方針、安全施策・安全投資などの重要事項の方針決定等を行う機関です。
- (3) 「安全推進委員会事務局」は、安全推進委員会の円滑かつ効果的な運営を行い、社内における安全運航についての意識高揚を図る組織であり、安全に係わる問題点および課題を抽出し、関係する社外諸機関および社内各部所との調整を実施しながら、解決に向けた諸施策の策定を行います。
- (4) 「安全監査室」は安全推進委員会事務局および各生産部門に対して、各組織の安全を維持する仕組みが正しく機能し、組織間の横断的業務が連続性を保持していることを客観的に評価する組織であり、改善策が必要な場合にはその作成も行います。
- (5) 各生産部門には、それぞれ部門内の安全推進を担当する部署を有しており、安全推進委員会と情報交換を行なっています。



AKX 運航の DCH8-400



CRF (2008年1月1日現在)



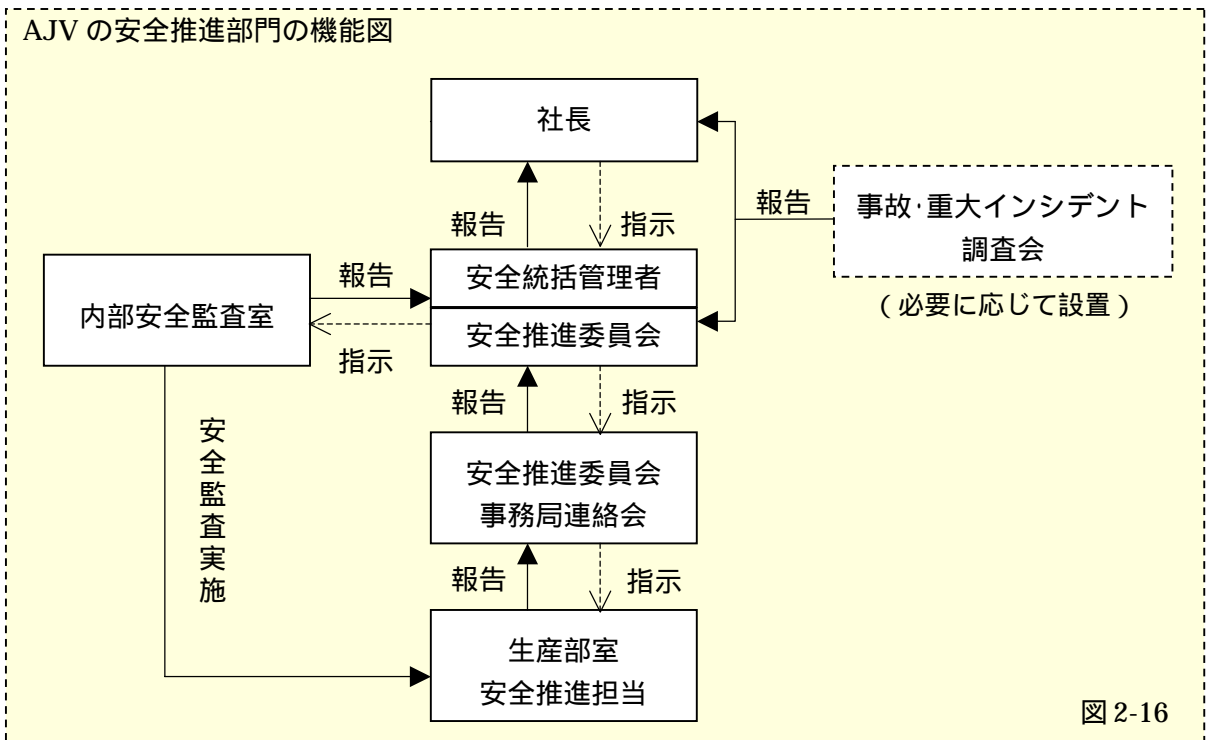
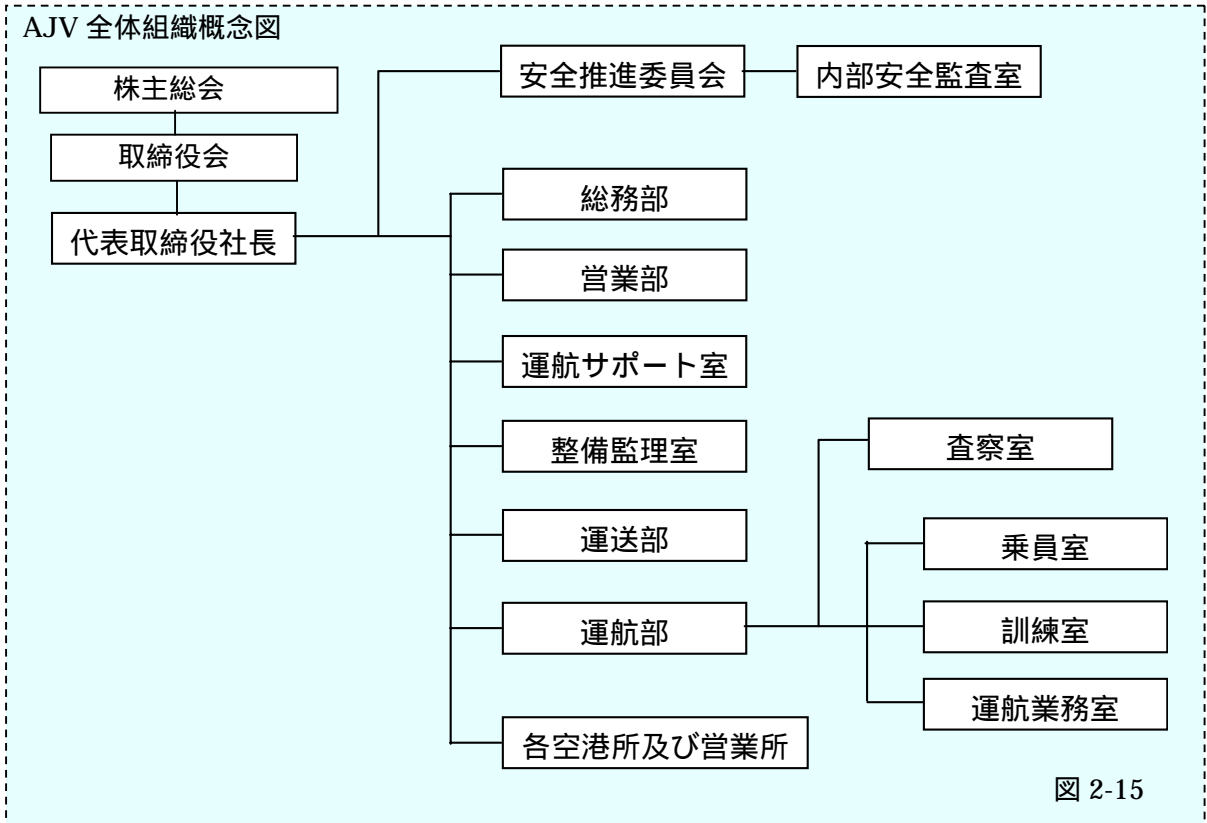
CRF の各組織の機能・役割の概要

- (1) CRF の組織は、本社部門と現業部門である生産部門に大別されます。  
生産部門には、運航乗務員が属する乗員部、客室乗務員が属する運送客室部、整備士が属する整備部等があります。
- (2) 本社部門である「安全推進委員会」は、安全上重要な課題の審議、方針の決定、安全対策の実施状況の確認、監視、提言・勧告、指示を行う、会社の安全に関わる最高の審議・決定機関であり、全社的安全推進機能を有します。また常設組織として社内の安全状況を全般的に把握し、全社的な安全推進を担当しています。
- (3) 安全推進委員会の下部組織である「安全推進ワーキンググループ」は、各生産部門の本社部門の課長（副室長）及び推進担当から構成されており、安全推進委員会の年間活動計画に基づき、企画、調整、実施を担います。また、組織横断的安全問題で早急な対応が必要な場合に対応策を検討し、委員会に提言します。
- (4) 安全監査室は、各部室の品質保証の仕組みが、安全上の基準等に適応しているか客観的に評価し、是正を求める役割を担っています。



CRF 運航の F-50

AJV (2008年1月1日現在)



AJV の各組織の機能・役割の概要

- (1) AJV の運航に係わる組織は、運航乗務員が属する「運航部」とその他の部室に大別されます。運航管理業務は ANA に委託し、主に委託管理業務を行います。「運航部」には、「査察室」、「乗員室」、「訓練室」があり、その他の部室には、「運航サポート室」、「運送部」、「整備監理室」等があります。
- (2) 「安全推進委員会」は、安全上重要な課題の審議、方針の決定、安全対策の実施状況の確認、監視、提言・勧告、指示を行う会社の安全に関わる最高の審議・決定機関です。
- (3) 「安全推進委員会事務局連絡会」は、安全推進委員会の下部組織に相当し各部室の担当者で構成され、具体的な安全推進活動を行います。
- (4) 「内部安全監査室」は、各部室の品質保証の仕組みが、安全上の基準等に適応しているか客観的に評価し、是正を求める役割を担っています。



AJV 運航の B767-300BCF

(3) 各組織の人員数

(2008年1月1日現在)

ANA (表2-1)

グループ総合安全推進室	ハローション統括本部	運航本部	整備本部	客室本部
34名	269名	2,114名	2,312名	5,053名

ANK (表2-2)

安全推進室	安全監査室	運航本部	整備本部	客室本部	空港ハローション統括部 (ANA兼務)
4名	1名	582名	247名	615名	190名(87名)

\* 空港部門はANAに委託しています。(台北空港は自社体制)

AJX (表2-3)

安全推進委員会事務局	内部安全監査室	運航部	客室部	運送部	整備監理室
1名	1名	50名	202名	2名	1名

\* 空港部門と整備部門はANAに委託しています。

NXA (表2-4)

安全推進委員会事務局	安全監査室	乗員部	ハローション部 客室課	ハローション部 運航運送課	整備監理室
8名(社内兼務8名)	2名(社内兼務1名)	84名	41名	1名	2名

\* 空港部門はANAに委託しています。整備部門はANKに委託しています。

AKX (表2-5)

安全推進委員会事務局	安全監査室	乗員部	整備部	ハローションサービス部	
9名 (社内兼務8名)	2名 (社内兼務2名)	44名 (社内兼務6名)	34名 (ANA兼務10名、ANAM兼務1名)	33名 (ANA兼務14名、ANK兼務3名、社内兼務4名)	
大阪事業支店			北海道事業支店		
乗員室	客室課	整備室	乗員室	ハローション課	整備室
62名 (社内兼務9名)	52名	46名	43名 (社内兼務1名)	84名 (社内兼務1名)	29名

\* 空港部門はANAに委託しています。(丘珠空港は自社体制)

CRF (表2-6)

安全推進委員会事務局	安全監査室	乗員部	整備部 (ANA兼務) 【A-net兼務】	運送客室部	運航ハローション部 (ANA兼務) 【A-net兼務】
1名	1名	80名	55名(10名) 【4名】	57名	26名(14名) 【7名】

\* 空港部門はANAに委託しています。

AJV (表2-7)

安全推進委員会事務局	内部安全監査室	運航部	運送部	整備監理室	運航ハローション部
1名	1名	63名	3名	1名	2名

\* 空港部門・整備部門はANAに委託しています。

ANA グループの空港部門業務の体制  
ANA グループでは、空港における旅客、貨物・手荷物等の取扱い等を一部の空港を除いて ANA が受託し、その業務を実施または ANA グループ各社、総代理店等へ委託する形態をとっています。



(4) 航空機乗組員、客室乗務員、整備従事者数、有資格整備士、運航管理者の数  
(2008年1月1日現在)

ANA (表2-8)

航空機乗組員	客室乗務員	整備従事者(確認主任者)	運航管理者
機長 993名	4,927名	1,451名(1,276名)	国内担当: 33名
副操縦士 581名			国際担当: 35名
総計 1,574名			合計: 68名

ANK (表2-9)

航空機乗組員	客室乗務員	整備従事者(有資格整備士)	運航管理者
機長 257名	604名	172名(165名)	68名 *1
副操縦士 183名			
総計 440名			

\*1: この内 ANA の運航管理者 56 名に共用運航管理者として囑託発令しています。

AJX (表2-10)

航空機乗組員	客室乗務員	整備従事者(確認主任者)	運航管理者
機長 35名	198名	0 (0)	*2
副操縦士 10名			
総計 45名			

\*2: ANA の運航管理者 35 名に共用運航管理者として囑託発令しています。

NXA (表2-11)

航空機乗組員	客室乗務員	整備従事者(確認主任者)	運航管理者
機長 23名	36名	0 (0)	*3
副操縦士 8名			
総計 31名			

\*3: ANA の運航管理者 55 名に共用運航管理者として囑託発令しています。

AKX (表2-12)

航空機乗組員	客室乗務員	整備従事者(確認主任者)	運航管理者
機長 68名	105名	64名(46名)	国内担当: 12名
副操縦士 35名			
総計 103名			

CRF (表2-13)

航空機乗組員	客室乗務員	整備従事者(確認主任者)	運航管理者
機長 37名	54名	35名(25名)	9名 *4
副操縦士 33名			
総計 70名			

\*4: この内 AKX の運航管理者 7 名に共用運航管理者として囑託発令しています。

AJV (表2-14)

航空機乗組員	客室乗務員	整備従事者(確認主任者)	運航管理者
機長 36名 (内 ANA 出向者 8 名)	0	0 (0)	*5
副操縦士 14名			
総計 50名			

\*5: ANA の運航管理者 35 名に共用運航管理者として囑託発令しています。

ANA グループにおける整備体制の基本的な枠組み

航空機材の整備の種類は、機体整備、エンジン整備、装備品整備に大別されます。

ANA グループ航空会社における機体整備は、下記の通り機種毎に主担当航空会社を定めています。

- ・ B747-400、B777、B767、A321/320 ANA
- ・ B737 ANK
- ・ DHC8 AKX
- ・ F50 CRF

主担当航空会社以外の ANA グループ航空会社は、当該機種の主担当航空会社に自社が運航する機材の整備業務を委託する構造になっています。

また、ANA グループには、整備専門のグループ会社があり、これらの整備専門会社は、ANA グループの各航空会社から、機体整備、エンジン整備、装備品整備の業務を受託しています。

このうち、機体整備を受け持つ整備専門会社の整備従事者数は以下の通りです。

- ・ ANA エアクラフトテクニクス 整備従事者 474 名 そのうち確認主任者 83 名
- ・ ANA フライトラインテクニクス 整備従事者 199 名 そのうち確認主任者 119 名
- ・ 全日空整備 整備従事者 198 名 そのうち確認主任者 44 名
- ・ ANA テクノアビエーション 整備従事者 374 名 そのうち確認主任者 53 名

なお、一部の機体の重整備については、国土交通省の認定事業場の資格を有し、当該機種の主担当航空会社の整備能力審査に合格した海外の以下の整備専門会社に委託しています。

- ・ SASCO ( ST Aviation Service ): シンガポールの整備専門会社で、人員規模約 1,500 人、ANA グループが所有する機種では、B747-400,B767,B777 の受託能力を有しており、ANA グループでは 1997 年から委託しています。
- ・ TAECO ( TAIKO Aircraft Engineering ): 中国の整備専門会社で、人員規模約 4,500 人、ANA グループが所有する機種では、B747-400,B767,B777,B737 の受託能力を有しており、ANA グループでは 1997 年から委託しています。
- ・ STAECO ( TAIKOO(SHANDONG)Aircraft Engineering Co.,LTD):中国山東省にある整備専門会社で、人員規模約 600 人、ANA グループが所有する機種では B737 の受託能力を有しており、ANA グループでは 2006 年から委託しています。
- ・ TG (THAI Airways International Public Co.,LTD): タイ王国バンコクに本社を置く航空会社で、DONMUANG 空港にある重整備部門の人員規模約 2300 人、ANA グループが所有する機種では、B747-400 の受託能力を有しており、ANA グループでは 2007 年から委託しています。
- ・ STARCO ( Shanghai Technologies Aerospace Co.,LTD ): 2005 年に ST Aerospace グループとして中国東方航空の機体重整備部門を母体として設立され中国上海虹橋空港内に施設を有する人員規模約 680 人の整備専門会社であり、JCAB/FAA/CAAC の認定を取得している。A321/320, B737CG 等の受託能力を有しており ANA グループの所有する A321/320 を 2007 年から委託しています。





(5) 業務の管理の委託に関する情報

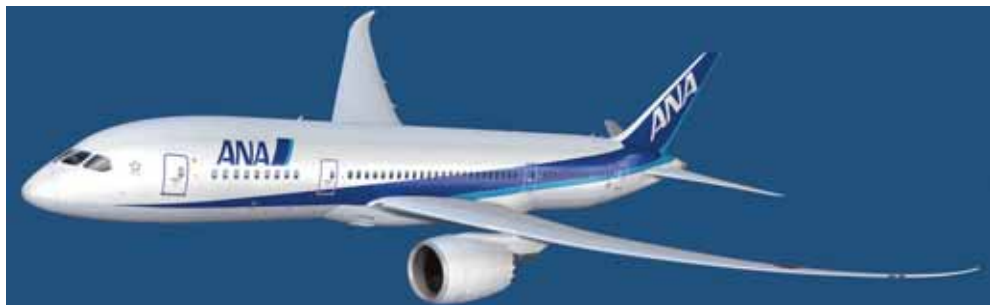
(表 2-15)

グループ航空会社

航空会社名	管理の委託業務内容	委託先	補足
ANA	運航管理	AJX	B767 による関西 グアム線、羽田 グアム線、成田 香港線、成田 広州線、成田 大連線、成田 シンガポール線、成田 上海線、羽田 香港線
	運航管理、整備管理	ANK	B737 による国際線
	運航管理	AJV	B767-300 F による関西 上海 成田線、関西 上海線、成田 関西 アンカレッジ シカゴ アンカレッジ 関西線、関西 アンカレッジ シカゴ線、関西 大連線、関西 香港線、関西 青島線、関西 青島 成田線、成田 天津 関西線、成田 天津線、関西 アンカレッジ シカゴ アンカレッジ 成田線
ANK	運航管理、整備管理	ANA	B767 および A320/321 による運航 B767 による成田 台北路線(貨物便含む) 休止中の路線 B767 による中部 - 台北線 B767 による関西 - 台北線(貨物便) B767 による中部 - 台北線(貨物便)
AJX	整備管理	ANA	B767-300 による運航
NXA	整備管理	ANK	B737-500 による運航
CRF	整備管理	AKX	DHC8-400 による運航
AJV	整備管理	ANA	B767-300F による運航

グループ外航空会社

航空会社名	管理の委託業務内容	委託先	補足
ANA	運航管理、整備管理	ABX	B767-200F による関西 香港 成田線、関西 香港線、関西 バンコク線、成田 大連 関西線、関西 大連線、関西 北京線、関西 青島線、成田 アモイ 関西線、関西 アモイ線



**(6) 航空機乗組員に対する定期訓練および審査の内容**

**ANA**

運航乗務員は、乗務資格を維持するために定期的に訓練（年1回）と審査（年2回）を受けなければならないため、学科訓練、模擬飛行訓練、緊急訓練、LOFT を実施しています。

また、訓練とは別に、シミュレーター（模擬飛行装置）での技能審査と運航便での路線審査を受け、これらに合格することが求められます。

**LOFT (Line Oriented Flight Training)**

シミュレーターを使用して、実運用に近い環境でクルーコーディネーション能力の向上を目的とした訓練方法

**ANK、AJX、NXA、AKX、CRF、AJV**

ANA と同様です。

注：AKX では現在 LOFT は実施しておりませんが、2008 年度中に実施の方向で検討しています。CRF では2月より DHC-8-400 型機の LOFT を開始いたしました。

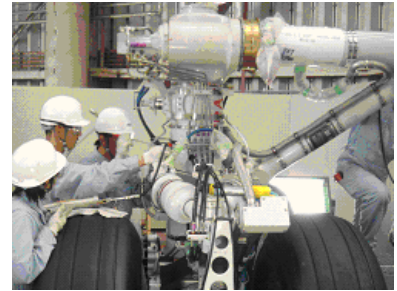


(7) 客室乗務員に対する定期訓練および審査の内容

ANA

定期緊急総合訓練

客室乗務員資格を維持するために行うもので、定期的(年1回)に訓練と審査を実施しています。  
シラバス:客室乗務員として必要な知識・技量の維持を再確認するとともに、緊急保安の意識向上を図ります(各種緊急事態・緊急着陸水・緊急脱出・緊急総合訓練・非常口操作・非常用装備品取扱い等)。



ANK、AJX、NXA、AKX、CRF

ANAと同様です。

(8) 整備従事者に対する定期訓練および審査の内容

ANA

定期訓練

以下の訓練を2年毎に実施しています。

AE ( Authorized Engineer ) 定期訓練

選任時の技量を維持するため、2年毎に航空法関連規則、品質管理制度の変更内容、及び事例分析を活用したヒューマンファクターズの知識を習得します。

検査員訓練

検査員が確実な検査を継続的に行うために2年毎に知識の再確認、新しい知識の周知を行っています。

領収検査員定期訓練

領収検査員が確実な領収検査を継続的に行うために、2年毎に新しい知識の付与並びに特別周知事項の徹底を行っています。なお、部品に係わる領収検査員は、1年毎に行っています。

認定作業員定期訓練

認定作業員が確実な整備作業を継続的に行うために、2年毎に必要な知識・技量の再周知を図っています。

ヒューマンファクター定期訓練

AE及び認定作業員に対して2年毎に事例分析を活用したヒューマンファクターズの知識を習得します。

航空輸送危険物取り扱い定期訓練

初回訓練又は定期訓練を行った月から起算して24ヶ月以内に、危険物取扱いに係る知識の再確認・新しい知識、および特別周知事項を習得します。

定期審査

作業員の技量を維持することを確認する為、2年毎に「認定作業員定期審査」を実施しています。

## ANK

### 定期訓練

以下の訓練を2年毎に実施しています。

AE ( Authorized Engineer )・検査員リカレント訓練・一般作業員リカレント訓練  
選任時の技量を維持するため、2年毎に航空法関連規則、品質管理制度の変更内容、及び事例分析を活用したヒューマンファクターズの知識を習得します。

### ヒューマンファクター定期訓練

上記定期訓練時に実施しています。

### 航空輸送危険物取り扱い定期訓練

ANA と同様です。

## AKX

### 定期訓練

以下の訓練を2年以内に1回以上実施しています。

#### 確認主任者リカレント訓練

品質管理制度の充実、技量の維持管理、ヒューマンファクターズに係わる不具合の防止等を目的とし、航空法規、品質管理制度の運用、ヒューマンファクターズに係わる最新の情報を習得します。

#### 検査員リカレント訓練

品質管理制度の充実、技量の維持管理、ヒューマンファクターズに係わる不具合の防止等を目的とし、これらに係わる最新の情報を習得します。

#### 領収検査員リカレント訓練

品質管理制度の充実、技量の維持管理、ヒューマンファクターズに係わる不具合の防止等を目的とし、これらに係わる最新の情報を習得します。

#### 一般作業員リカレント訓練

品質管理制度の充実、技量の維持管理、ヒューマンファクターズに係わる不具合の防止等を目的とし、これらに係わる最新の情報を習得します。

### 航空輸送危険物取り扱い定期訓練

ANA と同様です。

## CRF

### 定期訓練

確認主任者、検査従事者、監査委員、一般作業員（間接業務従事者を含む）に対し、最新知識の付与、技量の維持、ヒューマンファクターに係る不具合の防止等を目的とし、2年に1回以上実施しています。

### 定期審査

訓練終了時には、成果を評価・判定する為の審査を実施しています。

## NXA

整備業務はANKに委託しています。

## AJX、AJV

整備業務はANAに委託しています。

(9) 運航管理者に対する定期訓練および審査の内容

ANA

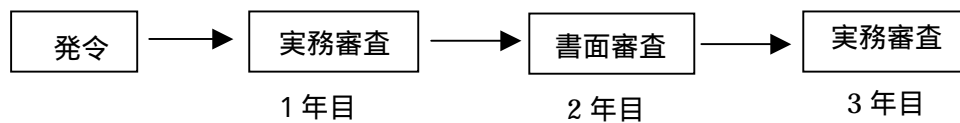
定期訓練

運航管理者の知識・技量の維持および安全意識の高揚を目的として原則として1年毎に実施しています。

- ・ 訓練内容 : 知識のリフレッシュ、運航関係の新知識、事例紹介
- ・ 標準訓練時間 : 7時間
- ・ 対象者 : 運航管理者として実務に携わっており発令後1年以上を経過した者

定期審査

運航管理者の知識、技量を確認する為、発令後1年毎に行い、原則として実務審査と書面審査を隔年毎に実施しています。



ANK

ANAと同様です。

AJX、NXA、AJV

ANAの運航管理者を嘱託発令しています。

AKX

定期訓練

1年に1回、運航管理者の職務に必要な知識および技量の維持向上を図ります。

- ・ 訓練内容 : 新しい運航関連知識または運航業務に必要な知識のリフレッシュ
- ・ 標準訓練時間 : 7時間
- ・ 対象者 : 運航管理業務に携わっており、発令後1年以上を経過している者

CRF

AKXと共用運航管理をしておりますので、AKXと同様です。



(10) 日常運航における問題点の把握方法およびフィードバック方法

ANA グループ全体

ANA グループにおいては、日常運航における問題点は、主に安全や品質を扱う会議体で検討され、対策が実施に移されます。また、そこで決定された内容を社内の業務ルートを通じて周知しています。

ANA グループ全体の会議体

- 1) グループ総合安全推進委員会  
グループ全体の安全に関わる重要な事案について審議し、方針ならびに実行の決定をします。  
・開催頻度：月1回  
・メンバー：各社の安全推進委員長
- 2) ANA グループ航空会社品質推進担当者会議（オペレーション部門）  
グループでのオペレーション品質の向上のため、品質マネジメントシステムの構築を図り、安全・品質に関わる活動や情報の共有化、指標モニター、品質推進会議との連携により、グループ航空会社におけるオペレーションの品質の向上と改善を図るとともに、委託管理体制を確実なものとしています。  
・開催頻度：月1回  
・メンバー：ANA、ANK、AJX、NXA、AKX、CRF、AJV のオペレーション統括部門担当者
- 3) e. Team ANA グループ品質管理会議（整備部門）  
ANA グループ航空会社の整備部門全体で、機材品質、作業安全、作業品質等の整備に関わる品質要素の重要な事項について情報を共有し、部門としての方向性を確認しています。  
・開催頻度：月1回  
・メンバー：本部長、副本部長、本部部室長、センター長、グループ会社整備部門長
- 4) グループ安全連絡会（運航部門）  
グループ会社の安全に関連する事項について、情報の共有と課題の整理等を行います。  
・開催頻度：隔月1回  
・メンバー：ANA、ANK、AJX、AJV、CRF の運航部門安全担当者
- 5) グループ安全担当者会議（客室部門）  
グループ全体の安全品質向上に繋がる安全啓発のナレッジ化を図るとともに横断的な課題抽出および解決の為に施策を検討しています。  
・開催頻度：年4回  
・メンバー：ANA、ANK、AJX、NXA、AKX、CRF の客室部門安全担当者



グループ全体の会議体以外の、日常運航の問題点の把握手段

・安全報告制度

ANA の安全報告制度は、各社、各生産部門で独立した形態で実施しています。ヒヤリハット報告は、“ヒヤリとした、ハットした”が、事象として現れなかったものを自発的に報告し経験を共有するものであり、代表的なものは客室乗務員を対象とした制度である STEP ( Safety Tip From Experience ) があります。運航乗務員を対象とした制度であるグループ ECHO ( Experience Can Help Others ) は、グループ横断的に行っています。

また、会社が報告すべき事象を具体的に定めている報告制度は各社毎に、機長に対して報告を求める機長報告制度/ASR ( Captain Report、Air Safety Report )、客室乗務員の Irregularity Report、CA Report 等、運航管理者の Dispatcher Report、等があります。

航空法や航空局の通達により報告が義務付けられた事象は、全て会社が定めた報告事象として設定されており、漏れがない体制になっています。

・運航リスクマネジメント

2006 年度の改正航空法の施行により、航空会社に安全管理体制 ( SMS : Safety Management System ) の構築が求められています。SMS においては、運航において発生する様々な不安全情報を収集し、リスク ( 事象の重大性と発生頻度 ) 評価を行い、リスクの大きさに応じた対策を講じる仕組みであるリスクマネジメントを実行することが中心的な要素となっています。

ANA グループでは、リスクマネジメントの概念や海外の航空会社のリスクマネジメントの運用実態等について理解を深め、ANA グループに適合する体制を検討してきました。

その結果、一部の部門でのリスクマネジメントの試行を経て、2007 年 11 月からは ANA グループ全体での試行に拡大しました。それらの経験を積んで、2008 年 4 月から正式運用を開始しました。

今後も、改善を加えながら、定着を図っていきます。

・FOQA

FOQA ( Flight Operational Quality Assurance ) は、安全運航の維持促進と運航品質の向上を図ることを目的とするプログラムであり、すべての運航便の飛行記録データを分析・評価し、その結果を運航乗務員にフィードバックするとともに、組織的な改善措置を講じています。ANA では 1970 年代に FOQA の前身となるプログラムを導入し、その後の調査・検討を経て 1997 年に現在の FOQA の運用を開始しました。現時点では、全てのグループ会社がこのプログラムを導入しています ( F50 型機を除く )。

・内部安全監査

ANA グループでは従来から自社の安全管理体制が航空法令や諸外国の安全に関する要求事項を満足しているかチェックする制度である SAFER と称する内部安全監査制度 ( Safety Evaluation and Review program ) があります。今年度は、この制度を強化し、ANA グループ航空会社全社が同じ基準、同じ運用で実施する Group SAFER 体制を構築しました。



ANA

会社全体の会議体

1) 総合安全推進委員会

会社全体の安全に関わる重要な事案について審議がなされ、方針ならびに実行の決定を行います。

・開催頻度：月 1 回

・メンバー：各本部長と本社の主要な部門の役員

2) OR (Operation Report) 会および OR 2 会

社長、副社長および各本部長間で運航に関する情報の共有化を図り、不具合事象に対する早期対策を行うことを目的としています。

・開催頻度：毎週 1 回

・メンバー：社長、副社長、各本部長およびオペレーション部門の部長

また、2007 年度からは毎月最終週の会議を、毎月の課題をフォローする OR 2 会 (Operation Report & Review) と改称して開催しています。





オペレーション統括本部内の会議体

1) 品質推進会議

オペレーションの品質（安全を含む）マネジメントを確実に実施するため、環境変化に対応した品質方針と品質目標の更新を行い、そのマネジメントが適切かつ効果的に行われているかを評価するとともに、不備の是正、また、改善を継続することを目的としています。品質マネジメントを効果的に実施するための方針、実施事項の決議機能を有しています。

・開催頻度：月1回

・メンバー：オペレーション統括本部長、副本部長および各部長

運航本部の会議体

1) 安全推進会議

運航本部における安全マネジメントシステムの中心的機能として、運航の安全にかかわる状況の把握、安全課題の審議、方針の決定などを行います。

・開催頻度：月1回

・メンバー：運航本部長、副本部長、各室長、関連部門部長

2) 安全連絡会

日常の運航状況の把握と関係者の共有を進め、安全にかかわる課題の整理を行います。

・開催頻度：月2回

・メンバー：副本部長および関係部署担当部長

客室本部の会議体

1) 部門安全委員会

客室部門全体の安全品質にかかわる諸課題の把握や対応策の検討を行い、部門方針の機能的な推進を行っています。SMSの実施状況についてレビューを行い、必要に応じ改善のための提言・勧告および指示を実施し、SMSのレビューに必要な事項を総合安全推進委員会に報告します。

・開催頻度：月1回

・メンバー：客室本部長、副本部長、各部長、担当部長及び担当主席部員

2) ANA 安全担当者会議

安全情報の共有化を図り、部門内の安全管理を徹底するとともに、安全性向上への具体策を検討します。必要に応じて客室部門安全委員会への報告・提言を行います。

・開催頻度：月1回

・メンバー：客室本部各部安全担当管理職および担当者



ANK

会社全体の会議体

1) 安全推進委員会

安全および運航品質に関する重要課題の審議、方針の決定、安全意識の啓発策、高揚策の決定並びに実施状況の確認等を行います。

- ・開催頻度：年4回
- ・メンバー：各本部長、生産部部門長、NXA・AKXの社長

運航本部の会議体

1) 運営会議

運航本部に係る主要事項を審議し決定するための会議として、運航をモニターするための手段である機長報告等により運航の現状を把握するとともに、安全推進のための方針・活動等について、運航本部の意志決定を行います。

- ・開催頻度：月1回
- ・メンバー：本部長・副本部長・室長および各組織長（部長）

客室本部の会議体

1) 保安担当管理職会議

客室保安品質全般の維持・向上に向け、レポートや社内外品質調査等からの課題についての施策を検討します。

- ・開催頻度：年8回
- ・メンバー：客室部保安担当管理職、客室部保安担当キャビンサポーター、および各乗務室保安担当管理職

2) 保安リーダー会議

保安担当管理職と課題の共有を図り、施策の実施や職場内への啓発についての検討を行います。

- ・開催頻度：年4回
- ・メンバー：各乗務室保安担当管理職、および各乗務室保安リーダー

整備本部の会議体

1) 整備部門会議

作業安全等自社及び関連会社の安全に関する情報を共有し、再発の防止を図ります。

- ・開催頻度：月1回

2) 品質管理会議

作業品質、機材品質の向上を目的としています。

- ・開催頻度：月1回開催

AJX

会社全体の会議体

1) 安全推進委員会

会社全体の安全に関わる重要な事案について審議がなされ、方針ならびに実行の決定します。

- ・開催頻度：月1回
- ・メンバー：社長(安全統括管理者)、取締役、各部長・室長

2) 他はANAと同様です。

NXA

会社全体の会議体

1) 安全推進委員会

会社全体の安全に関わる重要な事案について審議がなされ、方針ならびに実行の決定をします。

・開催頻度：月1回

・メンバー：常勤役員、乗員部長、オペレーション部長、整備監理室長、安全監査室長

2) 定例会議

主に各部門の報告・連絡事項を中心とした会議体であり、情報の共有化を図っています。

・開催頻度：週1回

・メンバー：役員および各部所の課長以上

乗員部門の会議体

1) 運営会議

乗員部に係る主要事項を審議し決定するための会議として、運航をモニターするための手段である機長報告等により運航の現状を把握するとともに、安全推進のための方針・活動等について、運航本部の意志決定を行います。

・開催頻度：月2回

・メンバー：部長・副部長・室長および各組織長（課長）

客室部門の会議体

1) 安全推進リーダー会議

客室安全品質全般の維持・向上に向けて課内の施策や啓発活動を立案、実施します。

開催頻度：月1回

メンバー：担当管理職および安全推進リーダー。

整備部門の会議体

1) 部門会議

毎月、期間中の機材不具合や、品質管理関連の情報交換、方針の決定をします。

・開催頻度：月1回

2) 監査部門会議：監査実施状況報告、共通の課題について議論します。

・開催頻度：2ヶ月に一回



AKX

会社全体の会議体

1) 安全推進委員会

安全に関わる重要な事案について審議がなされ、方針並びに実行の決定をします。

- ・開催頻度：3ヶ月に1回
- ・メンバー：常勤役員、各部門長、事務局長

2) 定例会議

主に各部門の報告・連絡事項を中心とした会議体であり、情報の共有及び分析に基づく指示を発信します。

- ・開催頻度：月1回
- ・メンバー：役員および各部所の部長以上

3) 拡大定例会議

主に各部門の報告・連絡事項を中心とした会議体であり、情報の共有及び分析に基づく指示を発信します。

- ・開催頻度：月1回
- ・メンバー：役員および各部所の課長以上

客室部門の会議体

1) 客室運営会議

客室部門に係わる主要事項を審議し、決定するための会議です。安全に係わる内容については、客室乗務員レポートから課題を抽出した上で、発生原因とそれに対する改善策の立案を行ないます。

- ・開催頻度：月1回
- ・メンバー：客室乗務員役職者（リードフライトアテンダント）、オペレーション・サービス部、旅客客室課員

乗員部門の会議体

1) 乗員部門運営会議

乗員部門に係る主要事項を審議し決定するための会議です。運航をモニターするための手段である機長報告等により運航の現状を把握するとともに、安全推進のための方針・活動等について、乗員部の意志決定を行います。

- ・開催頻度：月1回
- ・メンバー：乗員部長、乗員部副部長、査察室長、乗員訓練室長、乗員管理課長、乗員室長（丘珠、大阪）

整備部門の会議体

1) 品質管理会議

整備部全体で、機材品質、AKX 修理品質、ボンバルディア製造品質、作業安全等の重要な事項について情報を共有し、部門としての方向性を確認します。

- ・開催頻度：月1回
- ・メンバー：整備部長、整備監査委員長、計画課長、技術課長、品質管理課長、（オブザーブ参加：取締役、整備室長）



CRF

会社全体の会議体

1) 安全推進委員会

安全に係わる最高審議機関として、ワーキンググループを活用しながら、安全管理体制の管理、重要事項の方針決定、安全に関する組織横断的課題解決と啓発活動を推進します。

- ・開催頻度：月 1 回
- ・メンバー：全常勤取締役、運航サポート部長、事務局長

2) 安全推進委員会ワーキンググループ

安全推進委員会の年間活動計画に基づき、企画、調整、実施を担います。また、組織横断的安全問題で早急な対応が必要な場合に対応策を検討し、委員会に提言します。

- ・開催頻度：月 1 回
- ・メンバー：各組織長（課長）及び推進担当者：地上勤務客室乗務員 2 名、運航乗務員 2 名、整備士 2 名

3) OR 会

オペレーションに関する特記事項の報告や情報共有を行います。  
（特記事項；イレギュラー運航、機材不具合、乗務員稼働状況、スポット・地上ハンドリングの変更など）

- ・開催頻度：毎週 1 回
- ・メンバー：全常勤取締役、全部長（担当部長含む）、各組織長（課長）

客室部門の会議体

運営会議

客室部門に係わる運営上の主要事項を審議し決定するための会議です。安全に係わる内容については、客室乗務員からの各種レポートから、原因や改善策の立案を行ないます。

- ・開催頻度：月 2 回
- ・メンバー：客室部長、客室部管理職、客室乗務員役職者

乗員部門の会議体

乗員部会

乗員部門に係る運営上の主要事項を審議し決定するための会議です。安全に係わる内容については、機長からの報告等により運航の現状を把握するとともに、安全推進のための方針・活動等について、乗員部の意志決定を行います。

- ・開催頻度：月 1 回
- ・メンバー：乗員部長、運航サポート部長、乗員部、運航サポート部管理職及びスタッフ

整備部門の会議体

整備部会

整備部門に係る運営上の主要事項を審議し決定するための会議です。運航・機材品質、作業安全、委託先の品質等の重要な事項について情報を共有し、部門としての方向性を確認します。また、安全に係わる内容については、原因や改善策の立案を行ないます。

- ・開催頻度：月 1 回
- ・メンバー：整備部長、整備部管理職

乗員・整備部門の会議体

PM (Pilot/Mechanic) 会議

運航、整備に係る技術情報の交換及び共有を行うことにより、相互の連携を深め、運航および整備業務の円滑化を図ることによって運航・機材の品質及び信頼性を向上させ、定期航空運送事業会社としての使命を果たすことを目的とする。

- ・開催頻度：月1回
- ・メンバー：乗員部長、運航技術課長、乗員部長の指名するもの  
整備部長、整備課長、整備部長の指名するもの

AJV

会社全体の会議体

1) 安全推進委員会

会社全体の安全に関わる重要な事案について審議がなされ、方針ならびに実行の決定をします。

- ・開催頻度：月1回
- ・メンバー：社長(安全統括管理者)、取締役、各部長・室長

2) この他は ANA と同様です。



(11) 安全に関する社内啓発活動等の取組み

ANA

ANA グループでは、1971（昭和46）年7月の墜石事故、1999（平成11）年7月に発生した61便ハイジャック事件という痛ましい経験をした7月を「航空安全推進・航空保安強化」の月間と位置付け、各種の取組みを行っています。その一環として、毎年7月上旬に羽田空港において、TALKSAFE（トークセーフ）と称して、社外講師による講演、各生産部門の安全発表、その年度に安全確保・推進に功績のあった個人やグループの表彰等の行事を実施しています。2007年度はグループ航空会社のトップをはじめ約385名の出席者がありました。

その他の月間行事として、客室安全の知識付与及び緊急脱出訓練の実施、コックピット搭乗研修も実施しています。

TALKSAFE やその他の安全月間行事に参加できないローカルの社員向けに「安全キャラバン」と称する安全のメッセージを直接伝える取組みも実施しています。本年度からは、国内のみならず、本年度からは海外2空港（ソウル・大連）でも実施しました。社内関係会社や市内支店の社員等を含め、約500名以上が参加しました。

その他、安全啓発のための情報としては、グループ内の安全啓発誌「グループ安全飛行」、その英語版である「Safety, ANA Group」、安全情報誌「SIGN」等を発行しており、それに加え、社内ネットを活用した安全情報の発信も行っています。



TALKSAFE

グループ安全飛行



### ANK

ANA と同様の活動のほか、他に安全啓発誌「Safety Dolphin」を発行しています。

### AJX

ANA と同様の活動のほか、安全啓発情報( 客室乗務員に対する Cabin Safety Promotion 誌の発行、運航乗務員に対する Flight Safety Information ) を発信しています。

### NXA

ANA と同様の活動のほか、安全関連セミナーへの参加および新入社員に対する安全講話を実施しました。

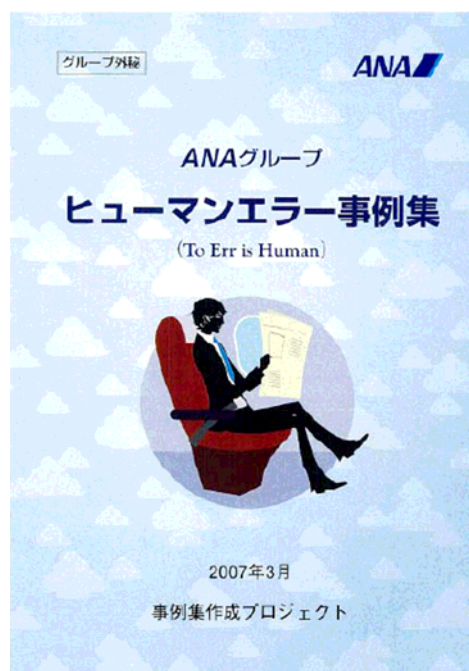
### AKX

ANA と同様の活動のほか、以下の施策を実施しました。

- ・社内安全ミーティング
- ・FSN ( Flight Safety News ) の配布
- ・ヒューマン・ファクター - ズ小冊子の全社員への配布及び教育
- ・法改正・安全管理規程の設定に伴う経営者層及び組織長への波及教育

### CRF、AJV

ANA と同様です。





(12) 使用している航空機の情報

(表 2-16：2008 年 1 月 1 日現在、飛行時間と飛行回数は 2007 年 4 月 1 日-2008 年 3 月 31 日の平均)

機種	代表的座席数	導入開始時期	機数		平均機齢	使用者	年間平均飛行時間	年間平均飛行回数
B777-200	415 席	1995.08	16		8.85	ANA	2,326	1,536
	382 席							
	358 席							
	294 席							
B777-200ER	234 席	1997.09	7		5.00			
	223 席							
B777-300	524 席	1997.11	7		7.88	ANA	3,606	1,047
B777-300ER	247 席	2004.08	11		1.47			
B747-400	323 席	1990.07	8		15.06	ANA	2,776	1,237
	287 席							
B747-400D	569 席	1991.11	11		14.11			
	339 席							
B767-300	279 席	1987.06	33	*1	16.18	ANA/ANK/AJX	2,683	1,698
	216 席							
B767-300ER	216 席	1989.05	21	*2	7.88			
	214 席							
B767-300F		2002.08	4	*3	2.65	ANA/ANK/AJV	4,976	1,940
A320	166 席	1990.01	27	*4	13.50	ANA/ANK	2,099	1,760
A320INT	110 席	2007.02	5		0.68	ANA		
A321	195 席	1998.03	1		9.67	ANA	1,851	1,652
B737-500	133 席	1995.08	25	*5	11.47	ANK/NXA	2,030	1,795
	126 席							
B737-700	136 席	2005.12	13	*6	1.18	ANA/ANK		
B737-700ER	38/48 席							
DHC8-300	56 席	2001.03	5		6.09	AKX	1,453	1,921
DHC8-400	74 席	2003.11	14		3.13	AKX/CRF		
F50	56 席	1991.04	3		14.29	CRF	1,627	1,691
	50 席							

(表 2-17)

使用者	使用機全体の平均機齢
ANA	10.70 年
ANK	8.62 年
AJX	9.01 年
NXA	11.47 年
AKX	3.91 年
CRF(F50)	14.29 年
AJV	2.65 年

(注) \*1：この内 4 機は ANA、ANK、AJX の共通の事業機  
 \*2：21 機全てが ANA、ANK、AJX の共通の事業機  
 \*3：4 機全てが ANA、ANK、AJV の共通の事業機  
 \*4：27 機全てが ANA、ANK の共通の事業機  
 \*5：25 機全てが ANK、NXA の共通の事業機  
 \*6：15 機全てが ANA、ANK の共通の事業機

【機齢について】

全ての航空機は航空機製造国の監督官庁が設定し、国土交通省航空局が承認した整備要目に従って整備されており、それにより耐空性が保証されています。例えば機体構造に対しても一定期間毎や一定飛行時間毎に点検や保守が整備要目に設定されており、それによって整備を実施しています。従って、機齢が高い機体であっても、信頼性や安全性は十分確保されています。

**(13) 機種別輸送実績**

(表 2-18)

機種	便数	旅客キロ	有償トンキロ
B777-200/ER	35,417	18,847,320,800	213,139,265
B777-300/ER	18,135	23,629,476,616	824,063,049
B747-400/D	23,297	26,880,396,608	415,536,941
B767-300/ER	88,221	34,940,464,542	397,239,134
B767-300F	5,906		250,624,559
A320	55,408	10,107,686,736	24,073,154
A321	2,214	515,043,118	1,140,514
B737-500/700	69,555	8,715,775,670	15,054,588
DHC8-300/400	36,622	1,225,407,256	225,200
F50	4,984	152,025,348	
*B767-200F	2,302		83,413,144

\*ABX 運航による ANA 便

**(14) 路線別輸送実績**
**【国内線】**

ANA 運航便 (表 2-19)

路線名	便数	旅客キロ	有償トンキロ
羽田 - 千歳	11,587	3,534,100,902	78,354,569
羽田 - 伊丹	10,213	1,738,369,074	15,939,123
羽田 - 関西	4,342	441,577,332	7,421,779
羽田 - 福岡	12,341	3,826,585,875	65,120,788
羽田 - 沖縄	5,830	3,765,621,867	70,774,309
羽田 - 神戸	2,192	229,009,450	912,245
羽田 - 稚内	957	164,519,235	475,907
羽田 - 釧路	1,460	206,304,024	2,246,716
羽田 - 函館	1,454	303,535,122	4,108,245
羽田 - 秋田	2,915	293,372,445	1,397,006
羽田 - 庄内	2,217	157,908,858	580,390
羽田 - 富山	4,362	552,332,280	1,812,036
羽田 - 小松	3,650	502,712,496	958,695
羽田 - 岡山	3,648	481,413,890	3,199,622
羽田 - 鳥取	2,828	215,066,813	775,589
羽田 - 広島	5,805	1,246,097,020	12,152,589
羽田 - 山口宇部	3,646	621,918,055	3,824,433
羽田 - 高松	3,645	532,462,212	4,822,362
羽田 - 高知	2,916	425,752,560	3,465,940
羽田 - 松山	4,380	922,030,843	7,115,464
羽田 - 大分	3,211	479,027,104	3,971,584
羽田 - 熊本	3,547	739,234,770	11,477,847
羽田 - 佐賀	2,236	174,394,030	18,075,367
羽田 - 長崎	2,917	762,099,822	9,397,036

路線名	便数	旅客キロ	有償トンキロ
羽田 - 宮崎	3,629	657,708,183	9,987,055
羽田 - 鹿児島	4,363	1,279,155,405	21,436,103
羽田 - 中標津	729	103,067,302	373,336
羽田 - 大館能代	8	536,940	1,010
羽田 - 八丈島	640	21,519,233	167,362
羽田 - 米子	3,459	308,199,264	1,751,194
羽田 - 石見	2	117,910	251
羽田 - 能登	327	17,874,250	545
成田 - 千歳	730	60,788,016	104,701
成田 - 伊丹	731	87,862,897	703,273
成田 - 沖縄	728	199,125,675	2,214,169
成田 - 中部国際	815	43,487,500	399,507
伊丹 - 千歳	861	369,640,341	7,252,706
伊丹 - 福岡	2,525	307,009,902	6,914,054
伊丹 - 沖縄	863	363,959,440	7,260,108
伊丹 - 釧路	98	16,876,352	60,314
伊丹 - 大館能代	17	1,084,592	34
伊丹 - 仙台	3,464	516,104,160	6,406,614
伊丹 - 新潟	458	26,867,503	125,776
伊丹 - 松山	1,883	104,597,514	203,858
伊丹 - 大分	1,518	74,971,974	445,267
伊丹 - 熊本	2,295	228,862,098	3,351,254
伊丹 - 長崎	2,777	214,924,569	1,594,521
伊丹 - 宮崎	2,033	181,817,936	1,615,527
伊丹 - 鹿児島	3,454	387,194,080	3,636,629
関西 - 千歳	2,962	737,247,126	11,742,486
関西 - 福岡	394	15,895,985	328,200
関西 - 沖縄	2,300	520,117,104	11,269,680
関西 - 函館	615	140,464,359	1,031,241
関西 - 鹿児島	170	8,431,524	22,125
関西 - 佐賀	162		556,660
関西 - 高知	590	5,106,528	5,969
中部国際 - 旭川	180	25,134,096	26,229
中部国際 - 千歳	3,262	527,510,172	4,941,904
中部国際 - 函館	237	28,992,960	136,131
中部国際 - 仙台	579	41,120,973	263,493
中部国際 - 新潟	393	12,994,020	186,266
中部国際 - 福岡	728	94,598,856	2,162,196
中部国際 - 大分	298	15,620,688	80,821
中部国際 - 宮崎	847	62,795,540	177,916
中部国際 - 沖縄	2,122	866,704,650	10,133,976
中部国際 - 佐賀	546		3,287,847
千歳 - 稚内	368	5,387,844	2,044

路線名	便数	旅客キロ	有償トンキロ
千歳 - 中標津	414	6,554,724	11,437
庄内 - 千歳	124	5,233,200	17,675
仙台 - 千歳	3,781	307,679,672	2,329,743
仙台 - 広島	719	71,652,018	115,897
仙台 - 沖縄	727	285,546,630	2,293,772
新潟 - 千歳	963	76,006,605	431,653
新潟 - 福岡	62	8,041,136	5,236
福島 - 千歳	423	31,749,120	83,521
富山 - 千歳	728	93,370,375	989,850
小松 - 千歳	727	102,503,674	1,208,773
神戸 - 千歳	2,073	345,989,070	2,674,448
神戸 - 沖縄	2,184	437,841,228	5,224,041
神戸 - 仙台	509	32,103,640	144,345
神戸 - 新潟	18	316,920	3
岡山 - 千歳	729	159,745,146	1,875,771
広島 - 千歳	727	213,962,810	3,589,155
広島 - 沖縄	726	197,093,205	2,290,772
高松 - 千歳	183	35,510,246	437,304
福岡 - 千歳	1,035	435,996,276	9,065,143
福岡 - 沖縄	4,360	795,841,200	22,504,293
大分 - 沖縄	182	16,358,930	57,707
熊本 - 沖縄	727	96,177,850	2,190,161
高松 - 沖縄	547	115,230,552	1,314,241
宮崎 - 沖縄	361	30,838,100	155,099



ANK 運航便 (表 2-20)

路線名	便数	旅客キロ	有償トンキロ
羽田 - 千歳	31	2,510,352	15,325
羽田 - 関西	1,947	115,054,566	210,022
羽田 - 沖縄	721	121,350,971	34,594
羽田 - 紋別	732	60,291,234	53,043
羽田 - 函館	2	121,044	1,117
羽田 - 秋田	2	154,845	269
羽田 - 庄内	668	32,957,622	69,004
羽田 - 鳥取	58	3,217,608	18,189
羽田 - 熊本	81	12,327,186	12,305
羽田 - 佐賀	666	81,973,590	377,926
羽田 - 大館能代	1,438	66,725,000	72,692
羽田 - 大島	1,093	7,857,000	104,036
羽田 - 八丈島	1,449	47,241,990	522,978
大島 - 八丈島	689	5,639,427	157,746
羽田 - 米子	180	16,920,680	96,727
羽田 - 石見	722	42,757,794	18,964
羽田 - 能登	1,134	65,428,500	3,301
成田 - 福岡	1,460	129,868,812	81,050
中部国際 - 女満別	726	84,651,840	75,183
中部国際 - 稚内	182	20,301,057	224
中部国際 - 旭川	368	50,589,578	59,798
中部国際 - 千歳	2,059	221,952,252	943,871
中部国際 - 函館	671	73,488,000	245,006
中部国際 - 秋田	304	16,469,082	16,706
中部国際 - 仙台	1,180	73,653,642	345,741
中部国際 - 新潟	330	13,595,400	96,761
中部国際 - 福岡	5,511	382,519,416	1,464,932
中部国際 - 大分	1,155	57,455,172	248,810
中部国際 - 熊本	1,449	94,436,250	114,149
中部国際 - 長崎	1,182	81,183,130	193,068
中部国際 - 宮崎	1,022	65,170,484	115,833
中部国際 - 鹿児島	2,502	181,753,806	662,157
中部国際 - 沖縄	58	13,074,180	24,200
伊丹 - 仙台	184	18,444,107	81,400
伊丹 - 新潟	995	60,306,311	273,866
伊丹 - 松山	304	12,251,358	12,501
伊丹 - 福岡	91	6,407,130	23,749
伊丹 - 大分	664	27,639,612	94,128
伊丹 - 熊本	636	47,120,238	166,819
伊丹 - 長崎	216	13,799,192	22,217
伊丹 - 宮崎	625	47,078,680	168,830

路線名	便数	旅客キロ	有償トンキロ
伊丹 - 鹿児島	302	28,995,540	285,281
関西 - 千歳	670	89,506,802	131,889
関西 - 福岡	2,637	105,435,533	437,770
関西 - 沖縄	1,329	165,167,041	666,811
関西 - 稚内	241	35,082,688	18
関西 - 女満別	729	105,457,163	113,390
関西 - 函館	275	31,483,494	17,845
関西 - 松山	1,453	31,665,512	24,370
関西 - 鹿児島	1,284	54,464,940	153,255
関西 - 高知	138	1,010,480	789
関西 - 福江	34	1,710,762	
神戸 - 千歳	87	12,468,717	10,651
神戸 - 仙台	213	11,805,400	15,195
神戸 - 新潟	4	53,515	2
千歳 - 利尻	664	10,068,112	1,796
千歳 - 中標津	298	5,274,522	4,727
千歳 - 稚内	314	3,384,003	1,498
福島 - 千歳	1,004	50,153,040	164,265
仙台 - 千歳	602	41,566,400	196,674
新潟 - 福岡	1,393	151,136,596	290,214
新潟 - 千歳	730	53,284,125	318,314
新潟 - 沖縄	484	96,392,025	152,436
松山 - 千歳	427	57,582,168	2,174
小松 - 福岡	1,220	84,270,952	381,620
小松 - 仙台	604	20,784,984	22,700
福岡 - 福江	816	11,247,600	33,590
福岡 - 対馬	1,500	19,208,240	51,658
福岡 - 仙台	1,329	158,788,544	666,811
福岡 - 沖縄	1,056	109,698,624	530,461
富山 - 福岡	364	24,119,964	12,283
長崎 - 沖縄	511	39,894,915	134,075
宮崎 - 沖縄	363	29,248,091	69,160
鹿児島 - 千歳	303	45,968,919	9,967
鹿児島 - 沖縄	1,900	123,015,062	1,023,283
沖縄 - 石垣島	4,944	199,185,888	1,729,389
沖縄 - 宮古島	3,170	83,207,872	919,253



AKX 運航便 (表 2-21)

路線名	便数	旅客キロ	有償トンキロ
丘珠 - 函館	3,078	30,667,810	7,275
丘珠 - 中標津	2,111	28,653,625	337
丘珠 - 稚内	682	6,430,128	
丘珠 - 女満別	1,428	15,914,736	
丘珠 - 釧路	2,084	17,960,862	1,417
千歳 - 利尻	2	8,096	
千歳 - 稚内	4	38,556	10
羽田 - 大島	288	1,485,864	7,783
中部国際 - 松山	2	35,904	
伊丹 - 福岡	933	34,406,606	30,328
伊丹 - 大館能代	705	24,759,904	2,321
伊丹 - 石見	726	11,638,323	3,232
伊丹 - 新潟	1,142	29,079,934	21,719
伊丹 - 松山	2,497	48,275,892	7,416
伊丹 - 佐賀	1,443	33,884,400	15,067
伊丹 - 高知	7,440	99,439,500	48,683
関西 - 高知	1,146	11,001,584	1,092

NXA 運航便 (表 2-22)

路線名	便数	旅客キロ	有償トンキロ
中部国際 - 旭川	182	19,809,842	25,850
中部国際 - 函館	122	12,543,360	41,133
中部国際 - 秋田	116	8,455,888	3,956
中部国際 - 仙台	121	9,118,503	42,649
中部国際 - 福岡	1,329	94,190,400	371,467
中部国際 - 長崎	274	21,270,410	87,579
中部国際 - 宮崎	300	18,351,840	33,033
中部国際 - 鹿児島	391	30,205,656	136,937
小松 - 仙台	121	5,600,719	8,890
小松 - 福岡	600	41,640,642	136,760
福岡 - 沖縄	394	38,730,384	366,871
福岡 - 仙台	124	12,799,896	72,013
福岡 - 対馬	828	11,054,770	31,883
福岡 - 福江	184	2,227,940	5,306
長崎 - 沖縄	214	14,437,785	35,319
鹿児島 - 沖縄	269	18,362,550	96,787
沖縄 - 宮古島	423	10,892,288	96,763
沖縄 - 石垣島	2,929	106,900,448	835,493

CRF 運航便 (表 2-23)

路線名	便数	旅客キロ	有償トンキロ
成田 - 中部国際	729	14,112,500	
成田 - 仙台	729	11,496,180	
中部国際 - 米子	1,449	21,554,572	
中部国際 - 福島	481	6,457,200	
中部国際 - 福岡	1,449	49,635,216	
中部国際 - 徳島	1,453	12,746,188	
中部国際 - 仙台	904	23,864,211	13,364
中部国際 - 新潟	1,153	25,217,595	
中部国際 - 松山	2,179	44,333,824	
中部国際 - 秋田	301	10,876,285	
伊丹 - 福岡	642	20,976,776	
伊丹 - 仙台	302	10,756,185	1,014
伊丹 - 新潟	307	7,481,084	
伊丹 - 松山	402	8,725,752	
福岡 - 福江	1,436	16,427,580	39,345
福岡 - 対馬	1,335	10,373,430	24,797

**【国際線】**

ANA 運航便 (表 2-24)

路線名	便数	旅客キロ	有償トンキロ
成田 - ロサンゼルス	732	1,371,405,750	120,751,399
成田 - サンフランシスコ	732	1,230,295,500	94,576,645
成田 - ワシントン D.C	732	1,532,611,888	144,980,562
成田 - シカゴ オヘア	732	1,387,416,912	152,387,647
成田 - JF ケネディ	732	1,725,240,315	155,875,786
成田 - ロンドン	732	1,543,961,385	121,241,248
成田 - ハリ	732	2,016,908,472	104,308,494
成田 - フランクフルト	732	1,750,666,566	108,118,726
成田 - ハンコク	1,464	1,493,376,790	64,454,534
成田 - シンガポール	1,222	1,041,668,886	52,129,187
成田 - 北京	1,462	496,754,198	23,070,378
成田 - 台北	1,623	521,229,874	31,292,730
成田 - アモイ	775	158,643,040	5,962,291
成田 - 大連	524	109,114,500	8,073,196
大連 - 瀋陽	206	4,280,232	2,137,759
成田 - チンタオ	732	88,185,396	1,662,531
成田 - ホーチミン	469	321,391,260	13,036,609
成田 - インチョン	732	115,820,286	402,400
成田 - 上海浦東	2,127	580,377,291	34,811,783
成田 - 香港	748	617,495,656	24,007,814



路線名	便数	旅客キロ	有償トンキロ
成田 - テンシ			461,243
成田 - 瀋陽	312	58,847,868	2,233,976
成田 - ハンゾウ	418	101,111,684	4,085,876
成田 - 広州	671	175,951,207	9,792,182
中部国際 - インチョン	820	80,629,668	2,299,425
中部国際 - テンシ	12		1,889,079
中部国際 - 上海浦東	728	86,202,480	1,233,865
中部国際 - 台北	73		1,781,021
中部国際 - チンタオ	76		1,786,609
中部国際 - 広州	170	26,263,332	1,111,121
関西 - インチョン	784	88,873,281	1,318,884
関西 - 北京	732	172,045,881	5,710,826
関西 - 大連	463	55,723,800	2,278,537
関西 - アモイ	75		3,653,301
関西 - チンタオ	60	230,009	1,256,695
関西 - 上海浦東	1,458	155,821,150	12,618,247
関西 - テンシ	12		375,373
関西 - 香港	732	311,372,124	10,477,442
関西 - グアム	732	323,222,966	2,407,482
関西 - 台北	225		17,500,086
関西 - ハンゾウ	314	54,093,660	2,653,054

ANA 運航便(ABX 運航) (表 2-24A)

路線名	便数	旅客キロ	有償トンキロ
成田 - アモイ	87		2,830,910
成田 - 大連	86		919,168
成田 - 香港	173		9,391,635
関西 - ハンコク	539		34,063,082
関西 - 北京	308		6,239,616
関西 - 大連	330		5,859,575
関西 - アモイ	176		5,027,971
関西 - チンタオ	128		2,889,803
関西 - 香港	475		16,191,384



ANK 運航便 (表 2-25)

路線名	便数	旅客キロ	有償トンキロ
成田 - ムンバイ	213	27,999,520	
成田 - 長崎	115	2,042,992	
長崎 - ムンバイ	114	12,388,750	
中部国際 - テンシン	724	65,779,470	381,515
中部国際 - 台北	728	117,250,056	6,122
中部国際 - 広州	561	26,692,848	358,592
関西 - アメイ	418	58,621,020	64,798
関西 - チンタイ	312	33,416,633	336,139



AJX 運航便 (表 2-26)

路線名	便数	旅客キロ	有償トンキロ
成田 - 大連	243	58,425,600	3,403,686
成田 - 上海浦東	62	13,630,188	1,004,977
成田 - 香港	716	374,311,040	16,055,502
成田 - 広州	732	243,632,440	13,031,430
成田 - ホルル	732	848,184,372	15,891,972
成田 - シンガポール	242	196,090,250	9,911,973

AJV 運航便 (表 2-27)

路線名	便数	旅客キロ	有償トンキロ
成田 - インチョン	12		698,785
成田 - 上海浦東	226		14,120,778
中部国際 - アンカレッジ	212		131,674,580
関西 - アンカレッジ	134		
アンカレッジ - シカゴオヘア	347		
中部国際 - 香港	210		12,079,421
中部国際 - インチョン	161		5,179,645
中部国際 - テンシン	225		4,060,357
関西 - インチョン	251		5,719,604
関西 - 大連	64		1,271,099
関西 - チンタイ	18		590,631
関西 - 上海浦東	264		10,472,273
関西 - テンシン	221		6,602,625
関西 - 香港	44		2,792,030

3. 航空法第 111 条の 4 に基づく「航空機の正常な運航に安全上の支障を及ぼす事態」の発生状況

(1) 事故

ANA 運航の NH126 の事故

1) 事故の概要

2007 年 7 月 12 日、沖縄発羽田行き NH126 (B747-400 型機) は、新島南西約 65 マイル付近を飛行高度 39,000 フィートで薄い雲の中を飛行中、乱気流に遭遇し、機体前方のギャレーで作業中の客室乗務員 1 名が転倒し肋骨を骨折しました。当時は、降下に移る少し前の水平飛行中で通常の機内サービスは終了しており、座席ベルトサインは消灯している状態でした。

なお、お客様には負傷等は生じませんでした。

2) 推定原因

2008 年 3 月 28 日、本事故に対する航空・鉄道事故調査委員会による事故調査報告書が公表されました。

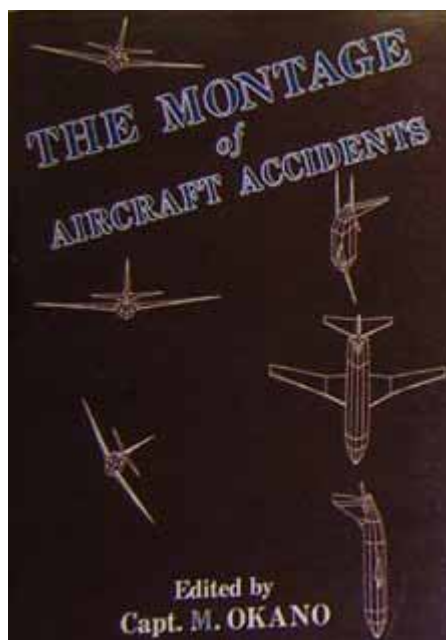
原因は、梅雨前線の南側で発達した積乱雲群による大気擾乱の影響による乱気流に遭遇した際、客室乗務員 1 名が中腰で作業をしていたため転倒し、重傷(骨折)を負ったと推定されました。

3) 対策

本事故に対し、以下の対策を講じました。

運航乗務員に本事例の概要を周知し、前線等に起因する発達した積乱雲の雲頂部雲中を飛行する場合には、予期せぬ揺れに遭遇することがあり得ることを注意喚起しました。

客室乗務員に対しては、従来から揺れに対する危機意識の醸成および揺れの防御姿勢についての教育や訓練等を実施してきましたが、継続して啓発活動を行うため「乱気流による客室内事故(負傷)防止について」と題する啓発用冊子を作成し、全客室乗務員に配布しました。



事故のモンタージュ  
発行：  
全日本空輸株式会社  
グループ総合安全推進室

(2) 重大インシデント

ANA 運航の NH79 の重大インシデント

1) 重大インシデントの概要

2007年6月27日、羽田発札幌行き NH79 (B777-200 型機)は、新千歳空港に着陸した後、管制指示に従い2本ある平行滑走路のもう一方を横断しました。NH79 が横断した同滑走路には、同じく管制指示を受け離陸滑走を開始した他社機 (B767 300 型機)があり、そのため他社機は離陸を中止しました。本事象は、「閉鎖中の又は他の航空機が使用中の滑走路からの離陸またはその中止」に該当する重大インシデントと認定されました。

2) 推定原因

本件については、現在国土交通省航空・鉄道事故調査委員会が原因調査中です。

3) 対策

運航乗務員に対し、出来る限り関連する航空機に対する管制交信の聴取にも努め、正確な状況把握に役立てるよう、注意喚起を行いました。航空・鉄道事故調査委員会の調査結果が公表され、さらに対応すべきものがあれば、適切に対応していきます。

ANK 運航の NH220 の重大インシデント

1) 重大インシデントの概要

2007年11月11日、福岡発中部行き NH220 (A320 型機)は、着陸許可を受け中部空港滑走路 36 に向けアプローチしていました。そのとき、中国南方航空機が管制指示を受けずに当該滑走路に進入したため、NH220 は管制指示により着陸復航しました。

本事象は「閉鎖中の又は他の航空機が使用中の滑走路からの離陸またはその中止」に該当する重大インシデントと認定されました。

2) 推定原因

本件については、現在国土交通省航空・鉄道事故調査委員会が原因調査中です。

3) 対策

航空・鉄道事故調査委員会の調査結果が公表され、対応すべきものがあれば、適切に対応していきます。



ヒューマンファクターズ  
への実践的アプローチ  
発行：  
全日本空輸株式会社  
グループ総合安全推進室

(3) その他の安全上のトラブル

(2007年4月1日～2008年3月31日の発生状況)

平成18年10月1日から航空事故等を防止する手段として、航空事故や重大インシデントに至らなかった事案に関する情報についても航空関係者で共有し、予防安全対策に活用していくことを目的に、本邦航空運送事業者及び航空機使用事業者は、従来の航空輸送の安全に関わる情報(航空事故、重大インシデント)に加え、新たに「その他の航空機の正常な運航に安全上の支障を及ぼす事態」を国に報告することが義務付けられました。

「安全上のトラブル」とは、上記「その他の航空機の正常な運航に安全上の支障を及ぼす事態」のことで、これらのトラブルが積み重なった場合には事故を誘発することにもなりかねないものの、それ自体は航空機の安全な運航にはほとんど影響はなく、直ちに航空事故につながるものではありません。

昨年度ANAグループでは、「安全上のトラブル」が全体で236件発生しました。

個別の概要は、ANA ホームページ(ANA Sky Web)「安全・運航情報」に掲載しています。

【事象の説明】

表3-1、3-2の事象欄の数値は以下の事象を示します。

- 1.1 : 航空機の航行中に航空機が損傷
- 1.2 : 航空機の航行中にシステムに不具合発生
  - 1.2.1 : 発動機、プロペラ、回転翼及び補助動力装置
  - 1.2.2 : 与圧系統
  - 1.2.3 : 自動操縦装置
  - 1.2.4 : 通信・通話
  - 1.2.5 : 電気系統
  - 1.2.6 : 操縦系統
  - 1.2.7 : 燃料系統
  - 1.2.8 : 油圧系統
  - 1.2.9 : 防除氷系統
  - 1.2.10 : 表示、警報
  - 1.2.11 : 着陸装置、ブレーキ及びタイヤ
  - 1.2.12 : 航法システム及びエア・データ・システム
  - 1.2.13 : 酸素供給
  - 1.2.14 : 抽気系統
  - 1.2.15 : 視界
- 1.3 : 航空機の航行中に非常用機器等の不具合発生
  - 1.3.1 : 防火系統
  - 1.3.2 : 非常装置等
  - 1.3.3 : 航空機、装備品若しくは搭乗者の安全を損なうおそれ又は緊急脱出を著しく阻害するおそれのある手荷物の収納又は貨物の搭載
- 1.4 : 航空機の航行中に規則を超えた運航を実施
  - 1.4.1 : 飛行規程に定める運用限界を越えた事態
  - 1.4.2 : 経路又は高度の逸脱
- 1.5 : 航空機の航行中に急な操作等を実施
  - 1.5.1 : 航空機の緊急操作を要した事態
  - 1.5.2 : 非常用の装置又は器具を使用した事態
- 2.1 : 一次構造部分の損傷等であって大修理に該当する修理を要するもの
- 2.2 : 緊急脱出信号発生装置、非常設備、非常用装置、非常用装備品又は緊急用具の故障
- 2.3 : 認められていない誤った装備品又は部品が取り付けられていた事態
- 2.4 : 搭乗者が負傷するおそれのある航空機構成部品が外れた事態

【運航会社別発生状況】  
(表 3-1)

事象	発生件数								
	ANA		ANK		AJX	NXA	AKX	CRF	AJV
	国内	国際	国内	国際	国際	国内	国内	国内	国際
1.1	9	3	1				1		
1.2.1	18	4	1				6	1	
1.2.2	3							2	
1.2.3	1								
1.2.4									
1.2.5									
1.2.6	1		1						1
1.2.7									
1.2.8									
1.2.9		1							
1.2.10									
1.2.11	1		1		1		7	4	
1.2.12	1								
1.2.13			1						
1.2.14									
1.2.15	1		1						
1.3.1									
1.3.2	3	1	2						
1.3.3	1								
1.4.1	9	5	1		2		1	1	
1.4.2	1								
1.5.1	52	9	24		2	2	8	3	
1.5.2									
2.1									
2.2	11	1	5						
2.3	2						1		
2.4	12	1	2				2		
小計	126	25	40	0					
総件数	151		40		5	2	26	11	1

事故・重大インシデントに認定された事象は含んでいません。

ANA で発生した安全上のトラブルの内 4 件及び AKX の 1 件、CRF の 1 件は、2 つの事象が同時に発生したため、各々の事象を 1 件ずつ、合計 2 件として計算しています。

報告状況の特徴としては、1.5.1 (航空機の緊急操作を要した事態) の報告件数が多くなっています。当該報告事象は、TCAS RA (航空機衝突防止装置の警告) により回避した事象と GPWS (対地接近警報装置の警告) により回避した事例で全数を占めています。TCAS RA は、管制機関の指示に従って運航している場合であっても、相手機の上昇率等や位置関係によって作動することがあり、GPWS は地形等により作動することがあります。いずれのケースも予め設定されたシステム上の基準に従って警報が発せられ、航空機はその指示に従うことで適切な回避ができており、深刻な事態につながるものではありませんでした。

【機種別発生状況】  
(表 3-2)

事象	発生件数												
	B777 -200	B777 -300	B747 -400	B747 -400 D	B76 7 -300	B767 -300F	A320	A321	B737 -500	B737 -700	DHC 8 -300	DHC 8 -400	F50
1.1	1	3		2	5	1			1			1	
1.2.1	2	2		6	11		1		1		3	4	
1.2.2							3					2	
1.2.3			2										
1.2.4													
1.2.5													
1.2.6					2				1				
1.2.7													
1.2.8													
1.2.9					1								
1.2.10													
1.2.11	1				1				1		4	7	
1.2.12							1						
1.2.13									1				
1.2.14													
1.2.15					1					1			
1.3.1													
1.3.2		2			1		1		2				
1.3.3	1												
1.4.1	3	3		1	5		2			1		2	
1.4.2			2										
1.5.1	14	7	4	4	20		18		13	10	3	6	1
1.5.2													
2.1													
2.2	3	4		1	4				5				
2.3				1	1							1	
2.4	3	2	2	1	5					2		2	
総件数	28	23	10	16	57	1	26		25	14	10	25	1

事故・重大インシデントに認定された事象は含んでいません。  
発生した安全上のトラブルの内5件は、2つの事象が同時に発生したため、各々の事象を1件ずつ、合計2件として計算しています。



#### 4. 輸送の安全を確保するために講じた措置

##### (1) 国から受けた事業改善命令等

ANA、ANK、AJX、NXA、AKX、CRF、AJV

2007 年度、ANA グループにおきましては、航空法に基づく国土交通大臣による事業改善命令等の行政処分は受けておりません。

##### (2) 輸送の安全を確保するために講じたその他の措置

ANA、ANK、AJX、NXA、AKX、CRF、AJV

国土交通省主催「航空機内における安全阻害行為等に関する有識者懇談会」により、2007 年 3 月航空法の適切な運用等を図るための対応すべき措置が「提言」としてとりまとめられた。当社グループにおいては、国土交通省ならびに定期航空協会のワーキンググループへの参画、「航空機の運航の安全に支障を及ぼすおそれのある電子機器等を定める告示」一部改正への対応、お客様への周知体制の強化を図りました。

##### ANA グループ

安全文化評価の実施 - 航空業界では始めて -

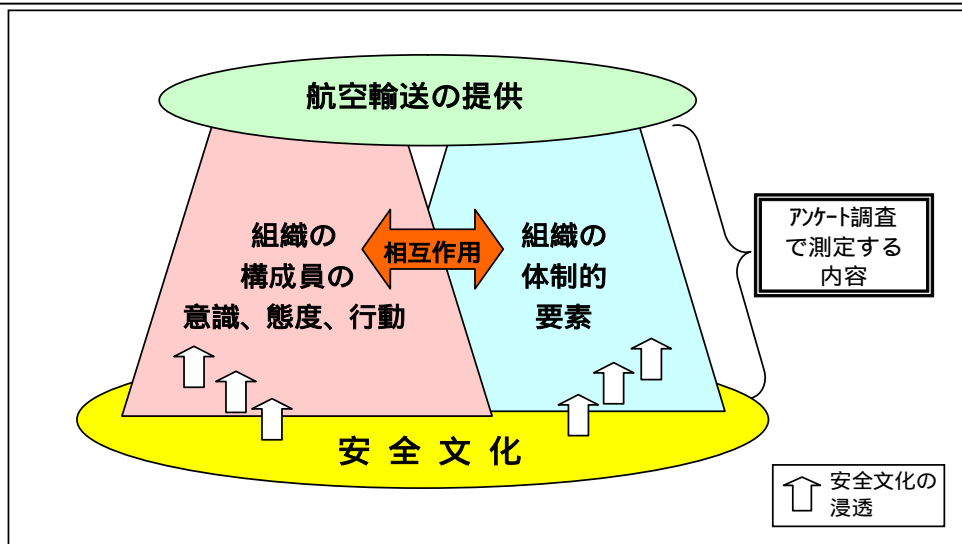
ANA グループでは、2006～2009 年度の中期経営戦略において、安全を最重点課題としており、そのなかで「安全優先の企業文化の更なる浸透」に取り組んでいます。

今までにも、ANA グループでは安全を向上するために様々な施策を講じてきました。しかし、安全を優先する企業文化、すなわち安全文化は、具体的には捉えどころがないことから、これらの施策が ANA グループの安全文化にどのように寄与しているのか、ANA グループ従業員の安全に関する意識や行動が現実にとどの程度できているのか、定量的に把握する必要があると考えました。

そこで、一部の産業で実施され始めた安全文化に対する企業診断をグループ 41 社、約 27,600 人の従業員を対象として実施することとしました。

安全文化評価は、外部の専門機関に依頼しましたが、航空運送事業である ANA グループにあった評価方法を検討するため、社内にプロジェクトを立ち上げ、外部の専門機関と共同で検討を行ないました。

評価の方法は、従業員に無記名でアンケート方式の設問に解答してもらい、その結果を分析し、評価組織単位毎に安全文化の浸透度を評価するものです。





今後の取り組み

今回の評価結果に対して、「グループ全体の課題」と「評価対象組織毎の課題」の両面から改善施策を定め、2008年度の計画に反映し取り組むこととしました。  
安全状況を定点観測するため、2009年度に再度、同様の調査を実施し、今回の結果と比較することにより、施策の効果と安全文化の浸透度を把握することとしています。

ANA グループ

高知事故に対する取り組み

2007年3月13日に、高知空港においてCRF運航のDHC8-400型機が、前脚が出ないまま着陸した事故が起きたことから、ANAグループでは4月～6月の間グループあげて緊急安全対策を実施しました。

具体的には、

各航空会社の経営トップや部門長・事業所長が安全の重要性を訴える「緊急安全トップキャラバン」を全国の主要空港を対象に中心にした「緊急安全トップキャラバン」を実施しました。

グループ総合安全推進委員会委員長のビデオによる「安全メッセージ」を全事業所・組織に配布し、グループ従業員が視聴しました。

ANAグループ総合安全推進室所属の監査員による全国178部署を対象にした緊急安全点検を行うとともに、各職場・組織で「基本作業・基本業務の遵守」の重要性についてグループディスカッションや自主点検アンケートを実施しました。

これらの点検やグループディスカッションを通じて抽出された課題は、2007年度内に計画的に改善を行いました。

(3) 2007年度における安全に関する目標とその実施状況、達成度及びその評価

ANAグループ全体の2007年度の安全目標と評価について

前年度(2006年度)においては、航空法の改正が行われたことからANAグループ各社とも、改正航空法に適合させるため会社の安全に関する最上位に位置づけられる安全管理規程を設定し、安全統括管理者を選任するなど安全に関する仕組みの整備に取り組みました。

また、グループ運営機能の整備やグループ安全監査体制の充実、ANAグループ安全教育センターの設置など改正航空法に基づく安全管理体制の仕組み作りに邁進しました。2007年度は、これらの枠組みの中で具体的な施行を実施する年度とし、そのため、以下の3点を安全に関わる重点施策といたしました。

安全優先の企業文化の浸透

グループ航空会社が同じ安全レベルを確保できる組織の確立

安全リスクに強い抵抗力を持つことができる仕組みの確立

これらの目標に基づき、行った活動はグループ安全管理体制を強化し、また、企業の安全文化を浸透度を把握することにより、今後の活動計画の方向性を見出す結果となりました。更に緊急安全対策はグループ間の協調性を生み出すと共に安全に関する意識付けが図られる結果となりました。

昨年度に続き、安全管理体制の充実を着実に図られております。

2007 年度 ANA グループ全体としての安全目標の実施状況

<p><b>【安全優先の企業文化の浸透】</b>          (1) 人材育成の強化と「安全文化の醸成」を図る。          (2) 安全に関わる報告の活性化を図る。</p>
<p>(実施状況)          ANA グループ内の安全文化の定着度を把握する目的で外部コンサルタントの指導を受け、アンケート方式による「安全文化企業診断」を実施いたしました。得られた結果で、分析・評価を行い、課題設定をいたしました。次年度以降の安全活動に取り入れ、更なる安全文化の定着を目指します。          また、ANA 安全教育センターでの安全教育をグループ社員 13,000 人に実施しました。これは全グループ社員の約 40%に相当します。          安全に関わる報告の活性化については、環境の整備と啓発を行いました。主な取り組みとして安全報告と懲罰に関する検討を行い、関連団体への働きかけを行いました。</p>
<p><b>【グループ航空会社が同じ安全レベルを確保できる組織の確立】</b>          (1) 不安全事故の再発・未然防止をグループ全体で推進する体制を強化する。</p>
<p>(実施状況)          組織的対応として、全グループ航空会社で構成する「安全に関するグループ運営体制」を構築しました。これに伴い、「安全推進」「安全監査」「事故調査」活動等が標準化されました。          また、不安全事故を分析する「リスク評価会議」を設置しました。会議では重要度・対策・効果について標準化するとともに事象の水平展開を行い、再発防止効果の向上に努めました。</p>
<p><b>【安全リスクに強い抵抗力を持つことができる仕組みの確立】</b>          (1) ANA グループの安全にかかわる P・D・C・A をより効果的にまわす仕組みを整備する。</p>
<p>(実施状況)          平成 19 年 3 月のボンバルディア機の高知空港での事故をきっかけに、ANA グループの緊急安全対策として経営トップ層による「緊急安全トップキャラバン」を全国の主要空港を中心に実施しました。さらにグループ総合安全推進委員長から「安全メッセージ」を全部署に発信しました。その他、全国 178 部署の緊急安全総点検、全職場でのディスカッション、安全に関する課題の洗い出しなどの取り組みを行い、安全に対する強い意識付けを行いました。</p>



2007年度 ANA の各部門における安全目標の実施状況

共通テーマ：不安全事故の未然防止対策の強化

オペレーション統括本部

	実施項目	実施状況
1	安全運航の堅持と安全文化の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全管理体制強化を目指し、部門監査体制の構築準備、不安全事故のモニター強化による事象の低減を行いました。</li> <li>ASEC を活用した安全教育を実施しました。</li> </ul>
2	基本品質の向上 安全性向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>旅客・手荷物個数不一致の削減対策として総代理店空港への ARM (Airport Resource Management) 導入のためインストラクターの養成を行い、大規模空港への BRS (Baggage Reconciliation System) 導入を行いました。</li> <li>不具合レポートシステムの運用等によるグランドハンドリングに関する不具合の削減を実施しました。</li> <li>CSQI-W(Cargo Safety &amp; Quality Information Worldwide)を発行し、海外空港での不具合再発防止を行う体制を構築しました。</li> </ul>

貨物本部

	実施項目	実施状況
1	安全性および保安対策への迅速で確実な対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>不具合発生時の報告ルートを整理し情報把握体制を構築しました。</li> </ul>
2	高品質でコストパフォーマンスの高い運送体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規採用従事者に対する基礎訓練実施体制を構築しました。</li> </ul>

客室本部

	実施項目	実施状況
1	日常安全・保安業務の確実な遂行	若年層の教育訓練の充実、安全文化の定着を目指し ASEC を活用しました。
2	イレギュラー事象、安全阻害行為等に係る客室乗務員の機内対応力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ会社との不安全事故の情報の共有化を行いました。</li> <li>パンフレット「Turbulence による客室内事故（負傷）防止について」を発行しました。</li> </ul>
3	部門の安全管理体制（安全マネジメントシステム）の構築	安全マネジメントシステム構築に向けた部門内プロジェクトを立ち上げました。
4	グループ安全品質向上に向けた連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ安全担当者会議を開催しました。</li> <li>グループ規程統一へ向けて、Door 操作に関わる手順と緊急着陸水前の措置の業務の統一を図りました。</li> </ul>

運航本部

	実施項目	実施状況
1	安全管理体制（SMS）に則った安全推進活動の展開	<p>*LOSA の結果から対応策を策定しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• LOSA 結果の周知と啓発のため、運航乗務員向けニュースを発行しました。</li> <li>• 各種会議体での*LOSA 結果の説明とディスカッションを実施しました。</li> <li>• 実運航およびLOFT でのブリーフィングへの Threat &amp; Error Management の概念を導入しました。</li> </ul>
2	ヒヤリハット報告（ECHO 制度）の活性化	ECHO 制度の活性化に向けて、運航乗務員の理解促進と投稿環境の整備を進め、投稿促進を図りました。
3	グループ運航部門の安全管理活動の連携	グループ運航部門に対し、滑走路誤認の事象を紹介し、再発防止の留意点を紹介し共有しました。
4	安全教育の充実	*ASEC 受講の促進を図りました。

\*用語の説明は最終ページを参照願います。

整備本部

	実施項目	実施状況
1	オペレーションリスクのマネジメント	ANA オペレーショナルリスク管理の対象を、従来の重要事象のみから、全てのイレギュラー運航、欠航、長時間遅発まで拡大し、さらなる管理強化を図りました。
2	安全文化の醸成と更なる定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>• SMS、安全管理規程への理解を深めることを目的に、プレゼンテーションと質疑応答を主とした講演活動を行いました。</li> <li>• 自発報告制度の展開としてトライアルを開始しました。</li> <li>• 専門チームによる再発防止策の有効性確認や運用状況モニターを開始、平行して要因分析や再発防止策の検討、検証に関する標準化を実施、訓練内容に反映しました。</li> <li>• *ASEC を活用した安全教育を実施しました。</li> </ul>

\*用語の説明は最終ページを参照願います。



2007 年度 グループ航空会社の実施状況/評価  
ANK

	実施項目	実施状況
1	安全優先の企業文化の更なる浸透と運航安全への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>社長、副社長によるトップキャラバンを実施しました。</li> <li>*ASEC を利用した安全教育を実施しました。</li> <li>安全セミナーへ参加しました。</li> </ul>
2	ANA グループの連携強化による安全レベルの向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全推進室・安全監査室全員が ANA に兼務で現職出向しました。</li> <li>安全文化評価プロジェクトに参画しました。</li> <li>8 月より*ATEC ワーキング・グループ・メンバーに参加しました。</li> <li>ANA グループ 安全報告書、グループ 安全年報を作成に参加しました。</li> <li>ANA グループ のリスクマネジメントの試行を開始しました。</li> </ul>
3	IOSA 更新監査	*IOSA の更新監査を 2008 年 1 月 28 日～2 月 1 日受審しました。

\*用語の説明は最終ページを参照願います。

AJX

	実施項目	実施状況
1	安全推進委員会の機能強化	ANA グループ安全推進部門教育を受講しました。
2	全社員に対する安全啓発活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>*ASEC での教育の受講を実施。</li> <li>*ATEC から転送される Flight Safety Information (英語版) の各人へのメール配信を実施しました。</li> </ul>
3	グループ会社との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ安全飛行誌編集会議に参画しました。</li> <li>「人間工学学会航空人間工学部会」、*ATEC 等主催のセミナー等に参加し、安全関連情報の収集を図りました。</li> <li>共通規定の制定に合せ、当社関連規定の改定を実施しました。</li> </ul>
4	内部安全監査制度の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>ANA Group 安全監査員の支援を受け、内部監査を予定通り実施しました。</li> <li>監査員を増員し、現監査員を対象に定期訓練を実施しました。</li> </ul>

\*用語の説明は最終ページを参照願います。

NXA

	実施項目	実施状況
1	安全推進啓蒙活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 新入社員に対する安全教育用冊子を作成し安全教育を適宜実施しました。</li> <li>• *ASEC 受講促進のため、操縦士訓練生/客室乗務員訓練生について初期訓練時に実施、下期からは安全推進委員会事務局員は全員が早期に受講完了すべく計画しました。</li> <li>• トークセーフに参加すべくキャンペーンを実施しました。</li> </ul>
2	安全推進委員会ならびに事務局の機能強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 安全推進委員および事務局員に対する安全教育訓練を実施するためのカリキュラムを作成し、訓練を実施しました。</li> </ul>
3	安全品質管理体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 内部安全監査を計画通り実施すると共に運航リスクマネジメントの運用トライアルを実施しました。</li> <li>• IOSA AUDIT 受審しました。</li> </ul>

\*用語の説明は最終ページを参照願います。

AKX

	実施項目	実施状況
1	社員ひとりひとりが安全を優先する文化の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>• *ASEC 250 名 (59%) 受講しました。</li> <li>• グループ ECHO へ参加しました。新入社員安全教育を実施しました。又、運管者の定期訓練と教育を実施しました。</li> </ul>
2	安全阻害要因を確実に取り除く業務プロセス確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 運航安全情報、作業安全情報の収集を E-mail にて受信。リスクマネジメント体制を整える為に分析対策を実施するシステムを構築しました。</li> <li>• 改正航空法および安全管理規程周知教育を受講し、安全推進部門要員の教育を受講しました。昨年度より実施している Q400 に加え、今年度より Q300 についても FOQA によるデータ分析およびレポートの発行を開始している。安全監査員を養成しました。</li> </ul>
3	安全のための情報の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 報告先として組織メールを設定し、閲覧用の不安全事象フォルダを作成しました。</li> <li>• 内部安全監査、航空局安全監査を受審しました。9月9、12日のSASの事故に関する状況について、グループ内で情報を共有し公開しました。</li> </ul>

\*用語の説明は最終ページを参照願います。

CRF

	実施項目	実施状況
1	安全意識のベースを構築させる教育の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>• *ASEC 研修を 123 名受講しました。</li> <li>• e ラーニング教材による、「安全教育基礎編」、「安全管理体制と安全管理規程」、「ヒューマンエラー（基礎編）」の受講を計画し、組織人員の約 70%が受講しました。</li> <li>• 安全推進部門教育、リスクマネジメント研修に参画し、安全推進ワーキング・グループ・メンバーへの波及教育を実施しました。</li> </ul>
2	安全マネジメントシステム（SMS）の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>• テーマを決めたヒヤリハットの発掘など、職場毎に取組み易い形態で SMS の実践を行い、活動の定着を目指しました。</li> <li>• 運航便や各種会議体などあらゆる機会を捉え、経営トップ・役員による安全に係るポイントを絞った対話を実施しました。</li> </ul>
3	安全推進機能と安全監査機能の連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 定期的内部安全監査において、*IOSA 2nd Edition に準拠したチェックリストに基づき、各部門の規程類の適合性について事前確認を実施しました。</li> </ul>

\*用語の説明は最終ページを参照願います。

AJV

	実施項目	実施状況
1	安全優先の企業文化の浸透と安全マネジメントシステムの定着に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 必要なタイミングに社長メッセージを発信しました。</li> <li>• 英語版安全管理規程や英文安全情報を公開しました。</li> <li>• *ASEC 研修および「安全管理規程と安全マネジメントシステム」の受講を促進しました。</li> <li>• 安全に係わる外部講演等への積極参加と社内で紹介しました。</li> <li>• 整備監理室に対する監査員の新たな要件を設定し監査員を選任しました。</li> </ul>
2	安全に関するグループ運営体制の定着と、各社が同じ安全レベルを確保出来る組織の確立に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 安全推進委員会事務局連絡会へ出席しました。</li> <li>• リスク評価プログラム導入に向けた勉強会を開催、運航実績評価においてリスク評価分析を開始しました。</li> <li>• 安全文化評価アンケートに参画しました。</li> <li>• *FOQA 委員会の正式運用を開始し、分析結果を踏まえ*FOQA 委員会ニュースをはじめ必要な技術・安全情報を発信しました。</li> </ul>

\*用語の説明は最終ページを参照願います。

(4) 2008 年度における安全に関する目標

ANA 2008 年度の安全目標

	大項目	中項目
1	「グループ社員の高い安全意識による責任ある誠実な行動」の強化	安全意識向上につながる広範囲な情報発信機能の強化
		安全教育計画に則った教育の実施
		グループ従業員の多様性に応じた安全教育機会の充実
2	「不安全事象を防止する PDCA を実践するための確かな仕組み」の強化	安全の大切さを従業員に「直接伝える」取り組み
		運航安全のリスクマネジメントの定着と向上
		ANA グループにおける安全に関わる報告制度の充実
		内部安全監査機能の向上

ANK 2008 年度の安全目標

	大項目	中項目
1	「グループ社員の高い安全意識による責任ある誠実な行動」の強化	安全意識向上につながる広範囲な情報発信機能の強化
		安全教育の実施及び体系整備
		各種研修の継続実施
		安全の大切さを従業員に「直接伝える」取り組み
2	「不安全事象を防止する PDCA を実践するための確かな仕組み」の強化	安全に関わる報告制度の充実
		運航安全のリスクマネジメントの定着と向上
		内部安全監査機能の向上

AJX 2008 年度の安全目標

	大項目	中項目
1	「グループ社員の高い安全意識による責任ある誠実な行動」の強化	安全教育の実施及び体系整備
		社員に対する安全推進啓発活動
2	「不安全事象を防止する PDCA を実践するための確かな仕組み」の強化	再発防止体制の充実
		安全管理規程の充実
		内部安全監査の充実



**NXA** 2008 年度の安全目標

	大項目	中項目
1	「グループ社員の高い安全意識による責任ある誠実な行動」の強化	安全教育の体系的実施
2	「不安全事象を防止する PDCA を実践するための確かな仕組み」の強化	不安全事象を防止する PDCA サイクルの確実な遂行
		社内コミュニケーションの更なる充実

**AKX** 2008 年度の安全目標

	大項目	中項目
1	「グループ社員の高い安全意識による責任ある誠実な行動」の強化	情報発信機能の強化
		ASEC を活用した階層教育、職種別安全教育実施
		安全管理規程の充実と再周知
		社内コミュニケーションの充実
2	「不安全事象を防止する PDCA を実践するための確かな仕組み」の強化	安全に関わる報告制度の再整理、充実
		リスクマネジメントの定着と向上
		IOSA 認定取得

**CRF** 2008 年度の安全目標

	大項目	中項目
1	「グループ社員の高い安全意識による責任ある誠実な行動」の強化	安全教育・啓発の実施
		社員一人ひとりの双方向コミュニケーションの充実
2	「不安全事象を防止する PDCA を実践するための確かな仕組み」の強化	ヒヤリハットを含む報告の励行と分析強化とタイムリーな情報共有
		SMS の推進と定着
		IOSA 認定取得
		安全な職場環境の確保

AJV 2008 年度の安全目標

	大項目	中項目
1	「グループ社員の高い安全意識による責任ある誠実な行動」の強化	安全優先の企業文化浸透に向けた人材育成
		安全意識の向上につながる広範で双方向コミュニケーション機能の強化
2	「不安全事象を防止する PDCA を実践するための確かな仕組み」の強化	運航・運送の不具合についてリスク評価を継続実施し、その定着と不具合の未然防止活動の精度向上を図る。
		「安全管理規定の実施要領体系」の構築に向けた、安全推進委員会等の運営および各種安全推進活動の見直しと、実施要領の設定。

- ATEC: 航空輸送技術研究センター (Association of Air Transport Engineering and Research)
- ASEC: ANA グループ安全教育センター
- IOSA: 国際的に認知された IATA (国際航空運送協会) の安全監査基準
- FOQA  
 FOQA (Flight Operational Quality Assurance) は、安全運航の維持促進と運航品質の向上を図ることを目的とするプログラムであり、すべての運航便の飛行記録データを分析・評価し、その結果を運航乗務員にフィードバックするとともに、組織的な改善措置を講じている。ANA では 1970 年代に FOQA の前身となるプログラムを導入し、その後の調査・検討を経て 1997 年に現在の FOQA の運用を開始した。現時点では、全てのグループ会社がこのプログラムを導入している (F50 型機を除く)。

以上

